

教育推進部真砂中央図書館

文京区子ども読書活動推進計画（案）について

1 概要

「文京区子ども読書活動推進計画（令和8年度～令和12年度）」について、文京区子ども読書活動推進計画策定検討委員会での検討及びパブリックコメントの意見踏まえ、案を作成したので報告する。

2 検討経過

令和6年7月30日	第1回検討委員会（計画について、アンケート内容の検討）
令和7年2月13日	第2回検討委員会（課題整理と方向性の検討）
5月20日	第3回検討委員会（素案の検討）
12月19日	第4回検討委員会（意見募集の結果及び計画案の検討）

3 素案に関する意見

(1) パブリックコメント 別紙1のとおり

募集期間 令和7年10月17日（金）から令和7年11月20日（木）
提出者（意見数） 4人（53件）

(2) 子どもの意見 別紙2のとおり

募集期間 令和7年11月5日（水）から令和7年11月20日（木）
提出者（意見数） 332人（282件）

4 子ども読書活動推進計画（案）

- (1) 計画（案） 別紙3のとおり
(2) 子ども向け計画（案） 別紙4のとおり

5 今後のスケジュール

令和8年3月 計画の公表

文京区子ども読書活動推進計画（素案）に対する意見募集の結果について

1. 意見募集の概要

件名	文京区子ども読書活動推進計画（素案）
募集期間	令和7年10月17日から令和7年11月20日まで
提出方法	電子メール（52件）、郵送（0件）、ファクシミリ（1件）、持参（0件）
提出者数	4人
提出件数	53件

2. ご意見に対する区の考え方

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
1	外国語の本の利用についてです。普段、ホームページで本を検索して予約していますが、外国語の本の検索がとても使いづらいです。外国語の本自体は増えているのに、検索が使いづらくて辿り着けていないものがたくさんあると思います。外国語の本の検索をぜひ使いやすいように改善してください。	外国語の本については、原題・邦題のいずれからも検索できるほか、言語区分での絞り込みも可能となっています。 こうした機能や検索の方法について周知するとともに、本との出会いの機会が広がるよう工夫してまいります。
2	文京区立図書館におかれましては、日本人のための充実した図書を揃えてくださりありがとうございます。 読書活動推進に向けた具体的な取組の「目標2 多様な子どもたちへの読書機関の提供」のうち 事業番号 10 外国語図書の整備・充実 事業内容：外国語図書を幅広く収集整理し、外国語を母語とする子どもや帰国児童・生徒など、必要とする子どもの読書活動を支援する。	区では多文化共生に向けた取組を行っており、本計画においても、読書をする上での障壁をなくすために「多様な子どもたちへの読書機会の提供」という目標のもと、外国語図書の整備・充実を図るとしてまいります。 すべての子どもたちが発達段階に応じ、読書の楽しみを享受できることをめざし、図書館においては、外国籍の子どもたちが母語に触れる機会を持つために外国語の本を揃えるほ

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
	事業目標：英語以外の外国語図書の充実を図り、文化、生活がわかる本や児童文学等、広く収集する。 に反対いたします。 〈反対理由〉 外国語図書を提供することでメリットを享受する対象児童とは、①外国語を母語とし日本に定住予定の子ども、②外国語を母語とし数年以内に母国に帰国予定の子ども、③日本人であって海外から帰国した児童生徒、と考えられますが、それぞれ、以下の理由で反対します。 ①の子どもについては一日も早く日本語を習得してもらうことが文京区の学校運営上の喫緊の課題となっています。逆に、母語（外国語）の図書を幅広く提供することは日本語習得の妨げになると危惧します。②の子どもには本来的には母国の在日大使館に援助を求めるべきです。③の帰国児童生徒については、親が海外で習得した語学力を維持させたいと考えるかもしれませんが、それは個々人で対応すべきものであり、②の子どもと同様に公的な図書館で税金を投入してまで提供すべきではないと考えます。 報道によれば、文京区の公立小学校に通う外国籍児童（主に中国人）は、2019年（令和元年）の194人から2024年（令和6年）には467人に増加。これは約2.4倍の急増で、うち中国籍が半数以上を占めるそうです。特に3.S1Kの各校で集中しており、誠之小学校では外国籍児童が全体の2割を超えるケースも報告されています。日本語ができず学校運営に負荷がかかり支障が生じているとの声も聞こえています。学校で外国籍児童のみのコミュニティができ日本で生活しながら、	か、日本語に親しむためのやさしい日本語で書かれた本も用意しております。こうした本を取り揃えることにより、外国籍の子どもだけでなく、日本の子どもたちにも異なる文化を知る機会になるものと考えております。 また、家庭での読書の充実のため、保護者への啓発にも取り組んでまいります。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
	ら日本語ができなくても問題ないと発言する児童が出てくるのも大問題です。これら外国児童に対しては日本語と日本のルールを理解させることこそが最優先であり、外国語図書を提供すべきではないと考えます。	
3	①読書バリアフリー法の目的と趣旨踏まえ「手話で楽しむ読書会（仮称）」を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 8 「特別な支援を必要とする子どもたちのためのサービス及び資料の充実」において、すべての子どもたちが楽しめるような行事の企画・実施について記載しています。具体的な行事内容については、利用者ニーズも踏まえながら検討してまいります。
4	②読書バリアフリー法の目的と趣旨踏まえ「ネイティブによる外国絵本の読み聞かせ会（仮称）」を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 11 「日本語を母語としない子どもの読書活動の推進」において、言語・文化的に多様な背景を持つ子どもたちが共に楽しめる行事を実施することを記載しています。具体的な行事内容については、利用者ニーズも踏まえながら検討してまいります。
5	③単なる「外国語図書」の整備・充実ではなく、「多言語対応絵本・図書」の整備・充実を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	外国語図書の購入にあたっては、利用者からのリクエストなどを踏まえながら、選書会議により購入図書を決定しています。いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。
6	④「特別な支援を必要とする子どもたちのためのサービス及び資料の充実」の一環として、デージーや点字図書、大活字本、布の絵本に加え、電子書籍、オーディオブック、ＬＬブック等、多様な資料を紹介したパンフレットの作成・配布を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 8 「特別な支援を必要とする子どもたちのためのサービス及び資料の充実」において、「りんごの棚」の設置について記載しています。りんごの棚は、バリアフリー資料を集めた本棚で、多様な資料の紹介とともに、周知にも取り組んでまいります。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
7	⑤自宅に無償で届ける「絵本や児童書の無償貸出サービス（仮称）」を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 27「プレママ・プレパパへの啓発」において、来館できない妊婦等へのためのサービスについて検討することを記載しており、いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。
8	⑥ティーンズあるは中高生の読書を促すため、ティーンズあるは中高生自身が同世代向けにＳＮＳ等で情報発信する仕組みを盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	令和 7 年 8 月に区立図書館全館（小石川図書館と大塚公園みどりの図書室は同じアカウント）の公式 X（旧 Twitter）を開設しました。ポスト機能を活用することなどにより、図書館情報を発信することは可能となるため、新たなＳＮＳプラットフォームの導入については、考えておりません。
9	⑦夏休み期間などを活用し、子どもたちに司書の仕事を紹介したり、司書養成の初歩的な学びを提供し、子ども自身を読書推進リーダーとする勉強会や講座を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 13「図書館と学校や施設との連携・支援体制の充実」において、中学生の職場体験の実施について記載しており、他にも小学校の図書館見学を行い、図書館司書の役割や仕事内容、図書館のことについて知っていただく機会としています。 引き続き、職場体験や図書館見学を積極的に受け入れ、図書館や司書について知ってもらい、読書活動の推進につなげてまいります。
10	⑧子どもによる子どもたちへの読書推進を促すため、子ども同士が図書館情報を発信できるＳＮＳプラットフォームを整える（あるいは支援する）施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	令和 7 年 8 月に区立図書館全館（小石川図書館と大塚公園みどりの図書室は同じアカウント）の公式 X（旧 Twitter）を開設しました。ポスト機能を活用することなどにより、図書館情報を発信することは可能となるため、新たなＳＮＳプラットフォームの導入については、考えていません。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
11	⑨区内の学校・学校図書館・公立図書館・児童出版社・書店・関係NPOなどとの総合的・包摂的・重層的な連携を通じた一体的な子どもの読書活動推進を図る施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	目標5「地域団体等との協働による読書活動の活性化」において、大学、図書館、出版社、書店、区関係団体、ボランティア団体、個人ボランティアなど、様々な方との連携を記載しています。子どもに身近な大人たちが共に力を合わせながら、子どもの読書活動の推進に取り組んでまいります。
12	⑩小中学校と連携し、子どもたちと高齢者がペアになり本の読み合い・読み合わせをする活動を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	各小学校では、地域の方が担い手となる学校図書館ボランティアによる読み聞かせが行われています。 事業番号37「学校図書館ボランティアの支援」では、「小学校での読み聞かせボランティア養成講座」を行うなど、技術向上の支援を行ってまいります。
13	⑪長野県立長野図書館で行われている「旅する本箱」プロジェクトの「文の京」版を文京区でも取り入れ、特に子どもたちの読書推進に屋kづ圧テーマを設定し、年代別に「本箱」をつくり“旅、をさせる施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。 https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/tabihon/index.html	事業番号25「子どもへの啓発」において、子どもたちの身近な場所に本があり、いつでも気軽に本を読める環境をつくるとともに、イベントや展示などを通じて、子どもたちへの読書の楽しさを伝えることを記載しており、子どもたちが本と出合える機会を増やすことは重要と考えております。いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。
14	⑫神戸市で行われている「みんなの青空図書館」のように、公園などを活用した屋外の図書館イベントを定期的に開催できるようにすることを盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	大塚公園みどりの図書室では隣接する公園での読み聞かせイベント、本駒込図書館では隣接する公園の都電を活用した読み聞かせイベント、目白台図書館では目白台運動公園での読み聞かせイベントなども行っています。 事業番号35「区関係機関との協力・連携体制の推進」において、図書館以外の場所での出張型の行事等を実施すると記載しており、引き続き、様々な場所での事業に取り組んでまいります。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
15	⑬区内の大学や高校、専門学校等の児童文化・教育、子ども読書推進に取り組む学生や学生サークル等と連携し、子ども向け「おはなし会」を定期するプロジェクトを盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 33「区内の大学等との連携の推進」において、大学生ボランティアグループによる児童行事の実施について記載しており、これまでも、大学サークルと連携し、読み聞かせイベントや手品イベントなどを行っています。引き続き、大学との関係づくりを行い、学生の専門性を活かした行事を実施してまいります。
16	⑭空き商店・空き家を活用し、地元町会・自治会、商店会と連携し、期間限定で子ども向け“まちなかライブラリー”を設けるプロジェクト盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	空き商店や空き家を活用した事業の実施については、所有者や各団体との調整が必要と考えております。いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。 なお、事業番号 5「子育て支援施設における読書活動の充実」において、子育てひろば等の子育て支援施設で絵本コーナーを設置しております。
17	⑮子どもたちが蔵書検索 A I を活用できるようにする（あるいは学べる）、そのためのシステムを区立図書館に備える施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	蔵書検索における A I の活用については、他自治体での導入状況や図書館利用者のニーズ等も踏まえながら検討が必要と考えております。いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。
18	⑯各図書館におけるトークイベントのアーカイブを P o d c a s t（ポッドキャスト）を通じて、子どもたちに無料配信するサービスを盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	図書館で行う人形劇や講演会等の配信サービスについては、著作権等の課題を整理しながら検討が必要と考えております。いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
19	⑰文京区立図書館において公式LINEを解説し、子どもたちに情報発信する施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	令和7年8月に区立図書館全館（小石川図書館と大塚公園みどりの図書室は同じアカウント）の公式X（旧Twitter）を開設しました。子どもたちを含めた図書館利用者への情報発信に努めてまいります。
20	⑱子どもたちの読書推進に関心を持つ大人を対象に電信書籍作成講座のようなものを企画し、その成果を区と連携し、子どもたちに提供する施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	これまでも子どもに身近な大人たちが、読書の楽しさを伝えられるよう、絵本出版社の編集長を講師としたトークイベントや絵本の原画展など、絵本をテーマとしたイベントや読み聞かせ講座などを実施しています。いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。
21	⑲子供向けの本と親向けの本を隣り合った棚に収蔵するとともに、親子で会話することも可能な「親子ふれあいコーナー」等を設ける施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	真砂中央図書館では、児童図書エリアに近接した場所に子育てコーナーを設けるなど、親子で読書を楽しめるような排架を行っており、各図書館では利用者が利用しやすい書棚づくりに努めています。 事業番号15「乳幼児とその保護者が図書館を利用しやすい環境づくり」において、親子で楽しく安心して利用できる環境整備について記載しており、書棚づくりも工夫しながら取り組んでまいります。
22	⑳子どもたちの通下校時に鉄道の駅で、図書館で予約した本屋資料を受け取れるロッカーを設置する施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	令和8年度の重点施策事業として、通勤・通学者等の利便性の向上に向けたシビックセンターへの図書貸出ボックス設置を予定しています。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
23	㉑子どもたちの読書推進に関心のある大人を対象に、ストーリーテリングの能力養成とスキル向上のための講座を開設する施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 36「図書館ボランティア（ライブラリーパートナー）の育成と連携」、事業番号 37「学校図書館ボランティアの支援」において、読み聞かせ養成講座等を実施しています。具体的な講座内容については、参加者等のニーズも踏まえながら検討してまいります。
24	㉒国際バカロレア機構との相互協力を受けて文京区において「探究的な学び」の啓発に取り組むのであれば、子どもたちに対する「探究的な学習を支える読書指導の充実」を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 20「調べ学習の支援」において、図書館と学校が連携しながら調べ学習用の図書等を充実させ、児童・生徒の興味や関心に応えるためのフロアワークやレファレンスワークを行うことを記載していますが、いただきました意見を踏まえ、文言を追加します。
25	㉓国際バカロレア機構との相互協力を受けて文京区において「探究的な学び」の啓発に取り組むのであれば、子どもたち向けに主体的に問題発見を促す「探究型」読書の啓発事業を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 20「調べ学習の支援」において、図書館と学校が連携しながら調べ学習用の図書等を充実させ、児童・生徒の興味や関心に応えるためのフロアワークやレファレンスワークを行うことを記載していますが、いただきました意見を踏まえ、文言を追加します。
26	㉔国際バカロレア機構との相互協力を受けて文京区において「探究的な学び」の啓発に取り組むのであれば、子どもたちが探究的に読書に取り組み、自分なりの考えを読書を通じて深められるような施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 20「調べ学習の支援」において、「文京区調べる学習コンクール」を実施しています。同コンクールは、身近な疑問や不思議に思うこと、興味があることについてテーマを決め、図書館等を活用して調べ、レポート等にまとめることで、楽しく充実した学びを実現し、将来に向けて豊かな学習観・読書観を育むことを目指しています。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
27	㊸国際バカロレア機構との相互協力を受けて文京区において「探究的な学び」の啓発に取り組むのであれば、「探究的な学び」に資する本の選び方、読書の仕方を子どもたちに身に付けさせる施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 20「調べ学習の支援」において、「文京区調べる学習コンクール」を実施しています。同コンクールは、身近な疑問や不思議に思うこと、興味があることについてテーマを決め、図書館等を活用して調べ、レポート等にまとめることで、楽しく充実した学びを実現し、将来に向けて豊かな学習観・読書観を育むことを目指しています。 また、フロアワークやレファレンスワークを行うことで、子どもたちの本を選ぶことや読書について支援してまいります。
28	㊹子どもたちに「情報リテラシー」の向上をもたらすような読書の仕方やあり方を伝える（教える）施策を盛り込むべきであり、盛り込まないのであればその理由を示し、区民の理解と納得を得ていただきたい。	事業番号 21「学校図書館への人的支援による機能の充実」において、学校図書館の読書センター・学習センター・情報センターとしての機能の充実を記載し、情報活用能力の指導等、学校図書館ガイドラインに沿った運営を目指すものとしています。
29	(1) 他の自治体では、多様な読書環境の整備の一環として、学校図書館以外にも地域文庫や民間書店との連携、電子書籍の導入など多様な読書環境の整備を盛り込んでいますが、文京区の素案には特に「デジタルリテラシー推進策」が不足しているので、充実・強化策を盛り込んでいただきたい。	事業番号 5「子育て支援施設における読書活動の充実」において、子育てひろば等の子育て支援施設での絵本コーナーの設置を記載しています。また、事業番号 16「電子書籍の活用」、事業番号 34「区内にある児童図書出版社や書店との連携の推進」を記載しています。 また、事業番号 21「学校図書館への人的支援による機能の充実」では、学校図書館の読書センター・学習センター・情報センターとしての機能の充実を記載し、情報活用能力の指導等、学校図書館ガイドラインに沿った運営を目指すものとしています。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
30	(2) 他区では家庭・保護者との連携強化の一環として、「家庭での読み聞かせ促進」「読書手帳の配布」「親子読書イベント」など、家庭や保護者との連携施策が充実していますが、文京区の素案では家庭での読書支援策が弱いようなので、「一歩先行く自治体」として他区に後れを取らないでいただきたい。	事業番号1「ブックスタート事業の充実」や事業番号2「ブックスタートフォローアップ事業の充実」において、絵本をお渡しし、親子の触れ合いを通してご家庭で本を楽しむ機会が持てるよう取り組んでいます。 また、事業番号4「発達段階にあった図書館行事の充実」において、読み聞かせのお話し会、親子イベントなどに組み入り、子どもたちが本に出会い、親しむ機会の更なる充実に取り組んでまいります。
31	(3) 他の自治体では、年齢や発達段階（乳幼児期・小学生・中高生）ごとに異なる読書支援策をきめ細かく明記しているのに、文京区の素案では年代別の具体的な施策が十分に記載されていないので、「一歩先行く自治体」として他区に後れを取ったり他の自治体市民から笑われるような施策にしないでいただきたい。	子どもたちの発達は様々で、その子にとって適切な時期に適切な本と出合える環境を整えることが必要と考えています。 年代で区切るのではなく、多様な子どもたちが、その成長段階に応じて、興味や関心を持てるよう取り組んでまいります。
32	(4) 他の自治体では活動の成果や課題を定期的に評価し、計画の改善につなげる「PDCA」サイクルを明記しているのに、文京区の素案ではこうした具体的できめ細かな評価・改善手法が不十分であり、他区に後れを取ったり他の自治体市民から笑われるような施策にしないでいただきたい。	事業番号30「『文京区子ども読書活動推進計画』実施のための進行管理」において、計画推進のためのセンター機能を真砂中央図書館に置き、計画の進捗状況を管理すること、及び計画の進行管理を行うことで、関係各所が課題改善に取組、計画の進行管理、本計画を効果的に推進することを記載しています。
33	(5) 全国的にみると、視覚障害のある子ども向けの点字図書、外国籍児童向け多言語図書など、多様性への配慮を明記した自治体が増えている中、文京区の素案では、こうした多様なニーズへの対応策が不十分であり、他区に後れを取ったり他の自治体市民から笑われるような施策にしないでいただきたい。	事業番号8「特別な支援を必要とする子どものためのサービス及び資料の充実」において、バリアフリー資料の収集及び「りんごの棚」の設置について記載しています。 また、事業番号10「外国語図書の整備・充実」や事業番号11「日本語を母語としない子どもの読書活動の推進」におい

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
		て、外国語図書の充実や多読資料の収集について記載しています。 誰もが読書を楽しむことができるような図書館サービスの充実について取り組んでまいります。
34	(6) 他の自治体では地域住民やボランティアによる読み聞かせ活動、図書館運営協力など、地域における連携強化がうたわれ強調されていますが、文京区の素案だと地域連携の度合いが薄く、具体策に乏しい印象を受けるので、全国の先進自治体の事例を参考に、「一歩先行く自治体」として他区に後れを取ることなく、参考にできる部分は参考にし取り入れていただきたい。	事業番号 36「図書館ボランティア（ライブラリーパートナー）の育成と連携」において、区内の多才な人材を活かした図書館サービスの充実及び地域に密着した図書館運営を行うことを記載しています。また、事業番号 37「学校図書館のボランティアへの支援」、事業番号 38「地域社会における読書活動を推進する団体等との連携の推進」において、地域や民間の関係団体の活動を支援し、連携を深め、情報交換や人的交流を促進することを記載しています。 具体的な取組については、ボランティアや団体等と意見交換を行いながら検討してまいります。
35	(7) 他区のケースを見渡すと、SNSや地域メディアを活用した啓発活動など、広報戦略面で様々な工夫がみられるものの、文京区の素案では広報戦略・啓発戦略の具体的な取り組みが不足しており、「一歩先行く自治体」として他区に後れを取ることなく、参考にできる部分は参考にし取り入れていただきたい。	令和7年8月に区立図書館全館（小石川図書館と大塚公園みどりの図書室は同じアカウント）の公式X（旧 Twitter）を開設しました。また、各地域活動センター公式 LINE も活用しながら、図書館行事の情報を発信しています。引き続き、子どもたちを含めた図書館利用者への情報発信に努めてまいります。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
36	(8) 他の自治体では、読書習慣が根付いていない家庭や経済的に厳しい家庭へのアウトリーチ施策（本の寄贈、移動図書館など）が結構盛り込まれているものの、文京区の素案では十分に触れていないので、アウトリーチ・支援が必要な家庭へのアプローチを充実・強化していただきたい。	事業番号 28「子どもの居場所としての図書館の利用促進」において、地域に開かれら身近な施設である図書館が子どもたちの居場所となるよう周知することや、事業番号 35「区関係機関との協力・連携体制の推進」において、出張型の行事等の充実について記載しています。図書館として、個々のご家庭への支援ということは難しいと考えていますが、いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。
37	(9) 全国を見渡すと、タブレット端末や学校の ICT 環境を活用した読書活動の促進が進んでいる自治体が増えている中、文京区の素案では ICT 活用への言及が総じて少なく、「一歩先行く自治体」として他の自治体に後れを取ることなく、参考にできる部分は参考にし取り入れていただきたい。	令和 8 年度の重点施策事業として、小学生及び中高生世代向けの電子書籍の充実及び高校生世代まで利用可能な電子書籍 ID・パスワードの交付を予定しており、学校貸与のタブレット端末において閲覧可能となります。時間や場所に捉われない電子書籍の充実について、引き続き、推進してまいります。
38	(10) 他の自治体では「〇〇年までに読書率〇%向上」など、具体的な数値目標や将来ビジョンが明記されていますが、文京区の素案は目標設定が曖昧というか抽象的であり、もっと責任感を持ってしっかり取り組んでいただきたい。	具体的な数値目標は設定しておりませんが、計画の進行管理を行い、関係各所が課題改善に取り組むことで、計画の着実な推進に努めてまいります。
39	(11) 上記 (10) の関連で、文京区の素案では具体的かつ数値化された目標 (KPI) と基準年度の数値が欠如しており、しっかりと評価・改善するためにも、「読書頻度」「貸出冊数」「未読率」「学校図書館の配置率」等の基準値と達成目標を盛り込んでいただきたい。目標の方向性は示しても、数値目標や評価指標が明確でないため、例えば基準年度（令和 7 年度）を明示した上で「年度別貸出冊数前年比 + 〇%」「小中生の読書習慣定期調査で不読率を 5 年で □ ポイント改善」	具体的な数値目標は設定しておりませんが、計画の進行管理を行い、関係各所が課題改善に取り組むことで、計画の着実な推進に努めてまいります。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
	などを入れていただきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかりと区民に説明していただきたい。	
40	(12) 他の自治体と比べると、文京区の素案は予算配分や実行体制(担当部署・人員・年間コスト)が不明確です。計画を実効化するには項目ごとの概算予算、人員配置、外部委託の想定が要るのに、文京区の素案は財源・体制の記載が乏しく、例えば主要施策ごとに「初期投資／年次運用費」「担当部課」を明示したり、財源案(既存予算転用＋国補助の利用可能性)も併記したりしていただきたい。	「第4章 2 具体的取組」では、所管課を明示しています。また、各取組については、それぞれの所管課において、計画し予算化するものであるため、本計画には、初期投資、年次運用費、財源案、体制は記載していません。
41	(13) 他の先進自治体に比べ、評価・モニタリングの頻度と公開ルールが未整備になっており、中間レビューや関係者向けの公開フォーマットがないと透明性・改善が難しい側面があります。年1回の「読書活動年次報告」、さらに3年ごとの「中間評価」を設定し、指標ごとの進捗(表・グラフ)を文京区民に公開するとともに、外部の有識者や学識経験者のレビュー等も文京区民と共有するようにしていただきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかりと区民に説明していただきたい。	子ども読書活動推進計画の進捗よく状況については、毎年、取りまとめの上、区ホームページへ掲載しています。 外部評価については、都や他自治体の動向を注視しながら、研究してまいります。
42	(14) 他の先進自治体と比べると、文京区の素案はデジタル読書(電子書籍・オンラインサービス)に関する具体策が弱い傾向が見て取れ、他の自治体では電子図書・非来館型サービスの明記が増えているのに、文京区の素案は方向性の言及に留まっている印象が否めません。電子貸出の導入・学校向けライセンスの取得、非来館(遠隔利用)サービス、低所得家庭向け端末貸出や回線支援の検討を明記していただ	令和8年度の重点施策事業として、小学生及び中高生世代向けの電子書籍の充実及び高校生世代まで利用可能な電子書籍ID・パスワードの交付を予定しており、同内容について、事業番号16「電子書籍の活用」に追記しました。パソコン、スマートフォン、タブレット端末において閲覧可能となり、時間や場所に捉われない電子書籍の充実について、引き続き、

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
	きたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかりと区民に説明していただきたい。	推進してまいります。
43	(15) 文京区の素案は「多様な子ども」に触れているものの、翻訳資料の整備や図書館の多言語カタログ、在住外国人向けの出張サービス等の具体策が不足しています。文京区は外国籍児童もそれなりに多く、重点施策として多言語ブックリスト、タイ語／英語など多言語の読み聞かせボランティア育成、翻訳付き利用案内、外国人家庭向け広報戦略を追加するなど、外国籍児童・多言語家庭への具体的な施策(多言語資料・アウトリーチ)を位置づけていただきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかりと区民に説明していただきたい。	事業番号 10「外国語図書の整備・充実」や事業番号 11「日本語を母語としない子どもの読書活動の推進」において、外国語図書の充実や多読資料の収集について記載しており、図書館の利用案内についても多言語対応しています。 また、ボランティアとの協働により、言語・文化的に多様な背景を持つ子どもたちが共に楽しめる行事を実施することを目標としており、多様な子どもたちが読書の機会がもてるよう取り組んでまいります。
44	(16) 他の自治体に比べ、総じて障害のある子ども向けアクセシビリティの具体目標が不十分です(※いわゆる「読書バリアフリー」対応)。確かに文京区の素案においても読書バリアフリー法は触れていますが、音声図書(DAISY等)、点字・拡大文字、図書館の設備改修・職員研修など具体的目標がありません。視覚障害向けの所蔵比率(音声版の割合目標)、ユニボイス等音声コード導入、職員のバリアフリー対応研修回数などを明記していただきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかりと区民に説明していただきたい。	具体的な数値目標は設定しておりませんが、計画の進行管理を行い、関係各所が課題改善に取り組むことで、計画の着実な推進に努めてまいります。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
45	(17) 他の自治体に比べ、学校図書館(学校司書・専門職)の配置・連携の数値目標が低い印象が否めません。先行自治体をみると、学校図書館活性化・学校司書の配置計画や連携プロトコルを明示しています。文京区の素案は、図書館連携を謳うものの、学校図書館スタッフ配置や研修頻度の明確な目標が見えにくい面があり、学校司書の配置率目標、図書館と学校の共同プログラム回数、図書館職員の出張授業実績目標を明記していただきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかりと区民に説明していただきたい。	事業番号 21「学校図書館への人的支援による機能の充実」において、平成 27 年度から全区立小中学校へ学校図書館支援員の派遣を開始したことを記載しており、支援員の配置率は 100%となっています。 支援員は、授業支援、学校図書館の利用しやすい図書の配列、魅力的な本の展示などの環境整備及び読み聞かせ・ブックトークの実施などの取組のほか、区立図書館との連携窓口としての役割を果たしています。各学校において取り組んでいるため、目標値の設定は難しいと考えますが、引き続き、学校図書館機能の充実・活性化に向けて取り組んでまいります。
46	(18) 他の先進自治体に比べ、文京区の素案は地域連携・産業界(出版社・書店)との協働枠組みが不明瞭です。書店・出版社・医療(乳幼児期の読み聞かせ)との公民連携は普及促進に有効ですが、文京区の素案だと協働メニューやインセンティブ(例:ブックトーク協賛)等の記載が少なく、インセンティブになりづらい面が否めません。書店と連携した読書週間、病院での絵本配布プロジェクト、出版社と連携した貸出キャンペーン等の協働モデルをもっと盛り込んでいただきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかりと区民に説明していただきたい。	国の「書店活性化プラン」では、活字文化の振興に向けて、文字・活字文化の発信拠点・担い手である書店や出版社、図書館等の関係機関が協働することや、地域に根差した読書環境の醸成や将来の読者の育成が書店振興に繋がることが示されており、連携は重要なものと考えています。 事業番号 34「区内にある児童図書出版社や書店との連携の推進」において、講演会や原画展、おすすめの本の紹介等の連携について記載しており、具体的な取組については、書店や出版社と意見交換を行いながら検討してまいります。
47	(19) 本計画の当事者でもある「子どもたち」の参加の仕組み(メカニズム)が他の先進自治体に比べて弱く、全国を見渡すと計画策定・評価に子どもの声(児童委員会・子どもワークショップ)を組み込む自治体が増えているのに、文京区の素案は「子ども重視」の文言に留まりお茶を濁しています。子ども参加型の評価会や年次「子ども読書サミット」開催、子どもによるブックレビュー公表等を明記していた	今回、区立小中学校に配布されているタブレットを活用し、素案に対する意見募集を行ったところ、多くの意見が寄せられ、改めて子どもたちの読書に対する関心の高さを確認しました。 また、事業番号 25「子どもへの啓発」において、子どもに対する意見募集やアンケート等を行い、イベントの企画や図

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
	だきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかりと区民に説明していただきたい。	書の選定への活用について記載しており、子どもたちの主体的な関わりを進めてまいります。 いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。
48	（20）他の先進自治体に比べ、非就学・中途脱落の児童・若者（アウトリーチ対象）への施策が不足しています。家庭・学校以外の場所（学習支援・若者支援機関）での読書機会確保の記載が限定的であり、リーチすべき層への明確な出張サービスや夜間プログラムが必要なのに十分に盛り込まれていません。児童館・学習支援 NPO との連携で夜間・週末の読書支援、移動図書サービスのターゲットングを充実・強化していただきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかりと区民に説明していただきたい。	事業番号 28「子どもの居場所としての図書館の利用促進」において、地域に開かれた身近な施設である図書館が子どもたちの居場所となるよう周知することや、事業番号 35「区関係機関との協力・連携体制の推進」において、出張型の行事等の充実について記載しています。 行事等において中高生向け施設の「b-lab（ビーラボ）」との連携について引き続き取り組んでまいります。図書館として、個々の支援ということは難しいと考えており、いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。
49	（21）他の先進自治体と比べると、文京区はボランティア育成・安全管理（研修・背景確認等）のルールがしっかり整っていません。読み聞かせ等で多くの区民が関わるため、研修や児童安全（身元確認、行動規範）の基準を明記する必要があります。ボランティア研修（年 1 回必須）、身元確認プロセス、子ども安全ポリシーの運用を追加し、ルールの枠組みをしっかりと整え、他の先進自治体に後れを取らないでいただきたい。	事業番号 36「図書館ボランティア（ライブラリーパートナー）の育成と連携」、事業番号 37「学校図書館ボランティアの支援」において、読み聞かせ養成講座等を実施しています。安全管理については、都や他自治体の動向を注視しながら、研究してまいります。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
50	(22) 他の先進自治体と比べ、データ収集の方法(調査設計)や研究連携が未整備というか見劣りします。定期調査(読書習慣調査・図書館利用調査)の方法や大学・研究機関との連携計画が具体的に示されておらず、年次或いは隔年の標準化された読書調査の方法(サンプル数・対象)をしっかり定め、分析・公開・改善につなげることを公表し、区民に約束していただきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかり区民に説明していただきたい。	図書館において子ども読書活動推進計画の改定時にアンケート調査を行うほか、「全国学力・学習状況調査」などにおいても、読書に関わる調査を実施しています。 いただきました意見については今後の参考とさせていただきます。
51	(23) 他の先進自治体に比べ、実施スケジュール(マイルストーン)の詳細が曖昧で見えにくい面があります。確かに計画期間は示されていますが、「いつ何をやるか(年度別行動計画)」が見えにくいと実行力が落ちる傾向が強まります。年度別の主要施策表(R8年度:ホットライン等/R9年度:電子図書導入試行/R10年度:学校司書配置拡大等)を明記していただきたい。	年度ごとの実施内容は設定しておりませんが、計画の進捗管理を行い、関係各所が課題改善に取り組むことで、計画の着実な推進に努めてまいります。
52	(24) 文京区の素案を読む限り、評価の外部委託や第三者評価の記載が見当たりません。透明性向上と客観性確保、さらに改善のために外部有識者や市民の第三者評価を入れる自治体が多いなか、文京区の素案では欠如しており、中間・最終評価に外部評価(大学・有識者)を組み込む旨を明記していただきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかり区民に説明していただきたい。	子ども読書活動推進計画の進捗よく状況については、毎年、取りまとめの上、区ホームページへ掲載しています。 外部評価については、都や他自治体の動向を注視しながら、研究してまいります。

No.	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
53	(25) 文京区の素案は災害時・パンデミック時等の非常時における読書環境の維持策が不足しています。コロナ禍で図書へのアクセスが制限された経験を踏まえると、非常時のデジタル提供や代替配布の方針が欠かせません。緊急時の電子貸出強化、移動図書や週刊教材配布プロトコルを追加し、災害時対応力の充実・強化を盛り込んでいただきたい。しない／できない／したくないということであれば、その理由をしっかりと区民に説明していただきたい。	令和8年度の重点施策事業として、小学生及び中高生世代向けの電子書籍の充実及び高校生世代まで利用可能な電子書籍ID・パスワードの交付を予定しております。時間や場所に捉われない電子書籍の充実について、推進してまいります。

子どもたちからの意見に対する区の考え方

1 意見募集の概要

件名	子ども向け文京区子ども読書活動推進計画（素案）
募集期間	令和7年11月5日から令和7年11月20日まで
提出者数	332人
提出件数	282件

2 ご意見に対する区の考え方

No.	学年	ご意見【本人が書いた文のとおり】	区の考え方
1	小学 6年生	あまりみんな本を読んでいないんだと思った。もっといろんな人が本を読んでもらえるように学校の図書館など子供も図書館におく本を決められるようになるともっといいなと思った。	図書館は利用する人によって充実させることができます。よく借りられている本や話題のテーマの本などを増やすようにしています。こんな本があるといいなと思ったら、図書館の人や図書委員さんに相談してみてください。みなさんの声が図書館をもっとすてきな所に変えることにつながります。
2	小学 6年生	・イベントやコンテストを開くのならば、私も参加したいと思いました。 ・読書を記録するアプリをつくったらいいと思いました。まず一年の始めに、今年目標を設定して（例えば60冊）、読んだ本を記録していきどれくらい近づいているのかを可視化できるアプリをつくるといいと思います。もしくは、「東京の名所一周の旅」などとして、一冊本を記録していくにつき、ポ	すてきなご提案をありがとうございます。アプリの作製はすぐにはできませんが、図書館では「読書スタンプラリー」などのイベントも行っており、参考にさせていただきます。みなさんが参加したくなるイベントや読書がワクワクする取組について考えていきます。

No.	学年	ご意見【本人が書いた文のとおり】	区の考え方
		イントがたまっていって、一定までたまると、次の名所に行けるみたいなアプリもいいと思います。その名所にちょこっと豆知識をつけていけば、みんなゲーム感覚で本を読むことができると思いました。大事なのは、本を読むための仕組みをつくることなので、仕組みづくりとしてはアプリがいいと思います。	
3	小学 4年生	読む本の文量と対象者の年齢を合わせた計画を立てるといいと思う 読書量は何冊かではなく文量に合わせて数えて欲しい	アンケート調査では読んだ本の冊数を尋ねましたが、それだけでは計れないことがありますね。長編に挑戦し、1か月では読み切れなかった人もいたかもしれません。数だけでなく、読書することで何かを感じたり、考えたり、心を動かされる体験をした人もいたかもしれません。 計画では、発達段階に応じた読書の大切さについての目標を立てています。数とともに読書の質についても考えていきます。
4	小学 4年生	ブックスタート事業の充実 について 生後4か月の赤ちゃんに絵本はちょっと早い気がするから1歳くらいからでいいと思った	すべての赤ちゃんと保護者の方に事業を行うために4か月児健診の時に行っています。読み聞かせをしてみると、4か月の赤ちゃんも反応を返してくれます。この日を親子の読書のスタートにしてほしいと願っています。また、1歳6か月の赤ちゃんには、図書館デビューのための取り組みも行っています。
5	小学・ 6年生	アンケートを見て、年齢が上がるごとに本を読まなくなっているのを知って驚きました。 私は、本を読むのが好きでも、読みたい本と出会うことがなかなかないので、図書館などで、より気軽に利用できるような環境を作ってほしいなと思いました。	とてもたくさん本がある中で、読みたい本と出会うことはむずかしいですね。人と本をつなげる役割をするのが図書館に働く人たちです。図書館がもっと使いやすく、気軽に本のことを相談できる場所となるようがんばります。
6	小学	0歳から18歳までという制限をする理由が気になる。大人だ	この計画は子どもの読書活動の推進に関する法律に基づい

No.	学年	ご意見【本人が書いた文のとおり】	区の考え方
	6年生	って本に出会っていいと思うし、そのために支援したっていいと思う。	てつくっていて、法律では子どもを概ね18歳以下の者としています。もちろん、読書は一生続けられることですから、大人のみなさんにも本との出会いのお手伝いをしていきます。
7.	小学 6年生	多くの子どもに本を読む機会を与えるのは大切だとは思いますが、「電子書籍を増やす」というのには賛成できません。間違った使い方をすると、視力が低下したり、学力が下がる恐れがあるからです。子どもに本を楽しく読んでもらうためには、読み聞かせなどで朝無理やり本に触れさせるのではなく、自分から面白そうと思えるような本を探すことのできる機会を与えるべきだと思います。	ご意見いただきましたとおり、電子機器の使用にあたってはルールが必要だと思います。一方で、印刷した文字を読むことが困難な方がいらっしゃいます。そうした方も含めて、すべての子どもたちが読書に親しめるように、紙の本だけではなく、電子書籍の利点を生かした対応をしていきたいと考えています。 読み聞かせやお話を聞くことも読書の一部であり、読書の方法は様々ですが、いずれにしても無理やりさせられることによって読書嫌いにならないように大人のみなさんをお願いしていきます。
8	小学 6年生	ぼくは、本を読みません、その結果は変わりません。勉強のじかんをうばってしまうからです。読みたい気持ちもあります。	きっと読書が好きなんですね。いつか、時間ができた時にたくさん読んでください。 本も読んでくれる日を待っていると思います。
9	小学 6年生	読書させていいことは速読できるようになることぐらいだから、本人が楽しいと思ったことをやらせるのが一番いい気がする。なので、必要ない	読書も楽しみの一つに加えてもらえるとうれしいです。
10	小学 6年生	外国語を話す友達と書かれているが、外国語を話す友達に外国の本をそろえるというのはとてもじゃないが賛同できない。まず外国語の本をそろえるのに税金を使うのではなく日本語を話せるようになう施設を作ったほうが絶対いいと思う。施設を作らなくてもいいので日本語を話してや日本語教室に行った	文京区では国や民族の異なる人々が文化の違いを認め、ともに生きていくことをめざしています。そして、この計画は、文京区で暮らしていたり、文京区にある学校に通っている子どもたちを対象にしています。 だれもが成長の段階に合った本と出会い、読書を楽しめる

No.	学年	ご意見【本人が書いた文のとおり】	区の考え方
		ほうがいよと呼びかけ日本語教室は区のものでいいが、ちゃんとお金を払わせることが大切だと思う。どちらにせよ外国語の本をそろえることには賛同できないしそのために税金を払うことも嫌だ。外国人全体の税金がちゃんと払ってくれるようになってからこの外国語の本をそろえるという計画は行ったほうがいいと思う。特に街中ではそのように税金も納めていない外国人やうそをついたりしている外国人がいるため外国語の本をそろえるのではなくそのような外国人を調べ上げ母国に返したほうがいいで税金をちゃんと納めている外国人だけになったら外国語の本をそろえるというのは実行してもいいかもしれないがまあ今はそういう時期ではないと思う。	ようにしたいと考えています。また、日本語に親しんでもらうため、やさしい日本語で書かれた本もふやしていきます。これらの本は、日本の子どもたちにとっても役立つものと考えています。
11	小学 6年生	電子書籍などで、本を読むことはとてもいいことなのですが、無理やり読ませるみたいに感じました。 なのでそこは、改善した方がいいと思います。	ご意見ありがとうございます。無理やりに読ませようという考えはありませんので、表現を修正します。
12	中学 1年生	良い案だとは思ったがそれを実行するのはとても大変ではないかと思った。 あと、文が長くてわかりにくかったので要約をもう少ししてほしかったです。	ご意見を参考にして、みなさんが読みやすいような概要版を作成します。計画の実行のため、多くの方に計画について知っていただき、協力していただくことが必要です。5年間で一つひとつ取り組んでいきます。
13	中学 1年生	確かに小学生の時より本にかかわることが少ないと自分でも感じた。そして小学生の時より本を読んでもる人が少ない気がします。ですが、自分が好きなものやことについての本ならたくさん読めます。その本を探してないだけで探して読むと本を好きと覚えることができると思うので子ども読書活動推進計画頑張ってください。	成長するにつれて、読書の時間が少なくなったと感じる人は大勢いると思います。みなさんがお気に入りのものを見つけられるように、大切な1冊と出会えるように、この計画をつくって、取り組んでいきます。

No.	学年	ご意見【本人が書いた文のとおり】	区の考え方
14	中学 1年生	様々な環境下にいるすべての子供たちに読書の機会と魅力を伝えることを目標にいろいろな取り組みを行っていることが分かった。 学校の課題等で本に触れる機会は少なからずあるが、最低限の読書しかしていない。理由を聞かれてもなんと表せばよいのか難しい。自分から本を手にする機会が少ないといったほうが正しい気がする。	インターネットなどで活字にふれる機会があっても、読書を通じて心から満足したと感じる体験は少なくなっているのかもしれないね。本を選ぶ楽しみを知ってもらい、本を手にとってもらえるように、図書館でも工夫をしていきます。
15	中学 1年生	読み聞かせをしてもみんな聞いているところ見たことがないからやってもあまり効果はないと思う。 人によって好きな本のジャンルは違うから読み聞かせをしたところで意味がない。勉強する時間を設けるほうがいいと思う。 漫画じゃダメなんですか？ 読書が本当に好きじゃない人はどうやっても好きになる確率は低いから読書以外で別のものに興味を持たせる推進計画をした方がいいと思う。	誰かに本を読んでもらうことや、友達と一緒に本を楽しむことは読書の体験として大切なことです。好みのジャンルは様々でも、知らなかった世界との出会いがあるかもしれません。 アンケートでは漫画を含めていませんが、漫画も優れた文化であると思っています。 何ごとにも好き嫌いがありますが、ひとりでも多くの人が読書の楽しみを知ってくれるように願いながら、取り組んでいきます。
16	中学 1年生	すごくいい案だと思います。日本の人だけでなく外国の人など幅広い人たちのためへの考えがよかったと思います。また自分自身本を読むことが好きなので、電子書籍という案はとても素晴らしいと思います。より本が面白いと思ってくれるように自動的に読んでくれる機能を電子辞書に加えてくれるとありがたい	電子書籍には読み上げ機能の付いているものがあるほか、「耳で聞く読書」としてオーディオブックも利用できます。新しい読書の方法も試してみてください。
17	中学 1年生	これは素案だが本物はどうなるのか	みなさんからのご意見も参考にして、令和8年3月に計画を完成させる予定です。

No.	学年	ご意見【本人が書いた文のとおり】	区の考え方
18	小学 6年生	私は、「文京区子ども読書活動推進計画素案」を読んで、学校の人たちが楽しみながら読書をしてもらえたらいいなと思いました。私は図書委員なので図書室に行くのですが、最近あまり人が来ませんでした。来るとしても決まった人しか来ないのでどのようにしたらみんなが楽しんでもらえるか考えていたのですが、読書活動推進計画を実行することによって、読書が好きな人が増えたりするといいなと思いました。	図書委員として頑張っていることが伝わりました。みんなが楽しみながら読書をしてくれるように、いっしょにがんばりましょうね。
19	小学 6年生	・目標3の学校における読書時間の確保を実施したとしても、本が嫌いな人や読みたい本がない人には習慣がつかないと思うし、退屈な時間になってしまうと思います。 ・ブックリストを作ったとしても、ハッキリ言って需要はないと思います。つくったことを宣伝してもわざわざブックリストを見ないと思います。 ・調べ学習の支援は実現したとしても、自分がよく行っている千石図書館では司書さんに話しかけられる雰囲気ではなくて意味がないと思います。後、学習スペースがあまりにも狭すぎます。勉強できる場所がなくていつも困っています。 ・保護者への啓発活動は果たして来てくれる人がいるのでしょうか。わざわざ講演会にくるほど保護者も暇じゃないと思います。 ・学校図書館ボランティアは例えばどういう活動をするのでしょうか。思春期の人達もいて親が学校に関わる仕事をすると嫌という意見が一定数出てくるかもしれません。なので賛否が分かれてしまうと思います。	・読書に対して興味や関心を持ってもらえるような取組を工夫していきます。 ・ブックリストを参考にして図書館に本を借りに来る人も大勢いますので、もっとすてきなリストになるようにがんばります。 ・図書館がみなさんの調べ学習に役立てるよう頑張ります。これから図書館を建てなおす時には、ご意見も参考にしながら、座席を増やしていきます。 ・子どもたちの読書活動を支えるためには、保護者のみなさんにも読書の意義を理解してもらい、環境づくりにもご協力してもらいたいと考えています。講演会への参加が難しいときは、できる範囲で取り組んでいただければと思っています。 ・学校図書館ボランティアさんは、小学校で活動されており、読み聞かせや図書室の整理などに取り組んでいます。学校では、いろいろなボランティアさんが、子どもたちの教育活動を支えてくれていて、かけがえのない存在です。子どもたちが図書室を利用しづらくならないように活動範囲などに配慮する

No.	学年	ご意見【本人が書いた文のとおり】	区の考え方
			ことも必要だと考えます。
20	小学 6年生	・本を好きになってもらうために、まず漫画から読むと自然に本を選べるようになるのではと思った。 ・1か月に1回または1週間に1回くらいのペースで読書の時間を設けるようにすれば本を読まない人でも本を読むと思う。 ・偏ったジャンルの本を(図書室に)置くのではなく、様々なジャンルの本を置くといいと思った。 ・読書の大切さよりも本によって得られる利点を強調したほうがいいと思う。	・まずは活字にふれてもらうため、それぞれ興味のあることから始めていくことがよいと思っています。 ・読書の時間を設けるというご提案、ありがとうございます。各小中学校では、「朝読書」や「学習活動内での読書の時間」などの日常的な読書時間を設けています。 ・学校の図書室には授業で使う本、楽しむための本など、様々なジャンルの本がそろっています。足りないジャンルや読みたい本があるときは、図書室の司書や図書委員さんに相談してみてください。 ・法律では、「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠かすことのできないもの」となっています。本によって得られることも含めて読書が大切であるとみなさんにしっかりと伝えていきたいと考えています。
21	小学 4年生	●●●●！本をかえるの図鑑しか読みません！4年なのに物語をよみません！物語とか小説は苦手なのでよまないのです。なので読まない方がいいと思います。	この計画では、図鑑を読むことも「読書」になります。みなさんの興味や関心、好奇心が読書によってより豊かなものになるように願いながら、取り組んでいきます。
22	小学 1年生	お勧めの本を冊子を使い紹介されたことがありますが、それを元に、本を探すことはありませんでした。紙の無駄に感じます。本の探し方などについて自身でさがせる様な仕組みや指導が必要だと感じています。	ブックリストを参考にして図書館に本を借りに来る人も大勢いますので、もっとすてきなリストになるようにがんばります。本との出会いのヒントとなるようなイベントや取組についても、今後検討していきます。 また、本の探し方については、学校の図書室と区立図書館が

No.	学年	ご意見【本人が書いた文のとおり】	区の考え方
			協力しながら、伝えていくことができるように取り組んでいきます。
23	中学 1年生	保護者に本を読ませる案はないのか 保護者が本好きだからその本好きが子供に伝染するというケースがあると思うから大人読書活動推進計画も作ってほしい	計画の中では、「保護者等への啓発」が具体的取組としてあります。子どもに身近な大人たちが、読書や読み聞かせの大切さを理解しながら、家庭での読書環境の充実についてご協力いただきたいと考えています。
24	小学 1年生	子供たちの読書に触れる機会を考えている活動推進計画であると感じます。学校でも図書の時間があることや新刊入荷のお知らせなどがあり、年齢に適した本を読むことができていると思います。小学校に上がってから宿題や勉強時間が増え、読書の時間が減っていることが悩みです。 上手く図書館なども利用していきたいと思います。	就学をきっかけに、図書館通いや読み聞かせを卒業するご家庭も多いように感じます。文字が読めるようになってもしっかりと読むことは楽しいですし、大切です。成長につれて時間が取れなくなることは必然ですが、読みたい時にすぐ読めるように、ご家庭や、図書館、児童館などで読書できる環境を整えていきたいと考えています。
25	小学 6年生	本の対象年齢を絞ってしまうことで、一人ひとりに合わせた本を提供できない可能性が高まってしまう可能性があると考えました。	本やブックリストに書かれている対象年齢は目安となっています。一人ひとりの発達や興味などに応じて本を選んでいただきたいと思います。
26	中学 3年生	本に興味のない人はコンテストやイベントがあっても、そもそも参加しないのでは？ 区立図書館のイベントに参加した時には高校生2人と私(中学生)+大人数名で本来は中高生が対象のイベントだったのに人数が集まらずに、大人もオッケーになっていたで人数があまり集まらないと思う。 読書自体の魅力を伝えたりこんなことが書いてあるからこの本は面白いって紹介しても活字が無理なのとか言われて断られます。	中学生や高校生のみなさんが参加したいと感じるようなイベントを企画・検討していきます。 読書はタイムパフォーマンスの悪い作業かもしれませんが、効率だけではない良さもあります。忙しくても、読書時間をつくっている人もいたりします。 みなさんに読書の魅力を伝えたり、面白い本の紹介をしたりしてくれて感謝します。中学生や高校生のみなさんが読書に興味や関心をもってくれるように、私たちもがんばります。

No.	学年	ご意見【本人が書いた文のとおり】	区の考え方
		SNS など一瞬で入ってくる内容を本で取り入れようとする と、タイムパフォーマンスが悪すぎるのであまり読書が好きな 人以外はあまり本を読むようにはならないと感じます。	
27	小学 6年生	読みたい本がないということは、もともとの本の魅力自体が薄 れているということだと思います。 日本だけでなく、世界全体が今、読書に興味を示さなくなっ てきています。 もっと面白い本を作るということが、できなくなっているの ではないのでしょうか。 そうならば今後、文京区だけでなく、世界から本を読む人が なくなってしまうのではないのでしょうか。 そのようなことを考えると、出版社と作家、自治体が協力し て、もっと面白い本を作る取り組みをやってもいいのではない のでしょうか。 うまくいけば文京区のアピールにもなります。こういうこと には、お金を惜しまずやってもらいたいです。	本よりも面白いことが多くある世の中で、読みたい本を見 つけることは大変な作業です。一方で、毎年多くのベストセラ ー作品も生まれています。 ご提案ありがとうございます。本を作る取り組みはすぐには できませんが、図書館や書店だけではなく、作家や出版社とも 協力しながら取り組むことは大切だと思います。 いっしょに連携しながら、読書の魅力を発信していきます。
28	小学 6年生	文京区子ども読書活動推進計画素案に同意します。しかし、本 をただただ読んでいるだけだと、学力が向上するどころか、む しろ学力が低下してしまいます。その理由は以下の通りです。 ・本をただ読んでいると、筆者の考えをただ真似るだけになっ てしまう。 ・筆者の考えをただ真似ると自分の発想や思考力が養われな い。(理由として、本を読んでいる時は疲れないこと) ・読書とは、本当は筆者の考えを理解するだけではなく文章に	読書には様々な目的や楽しみ方があり、どれもまちがいで はありません。学力の向上もその一つとなりますが、自分な りの読書のあり方を見つけていただきたいと思います。 図書館でもそのお手伝いが出来ればと思っています。

No.	学年	ご意見【本人が書いた文のとおり】	区の考え方
		書かれていない筆者の意見を読み取ること。 なので、学校は読書をする本質を生徒に教える活動をするのが 良いと考えます。	

※ 個人を識別できる情報は、「●●●●」と記載しています。

3 その他のご意見・ご感想

計画について		
1	小学5年生	気づいたこと：4ページ目で、一か月に読んだ本の平均が一番多いのが、小学3年生というところから、私は、中学年は、まだ勉強量や、宿題量、学校にいる時間も少ないため、読む時間が多く、逆に中学生は、より時間が少なくなっていくから、読む量が少なくなるのではないかなと思った。 感じたこと：図書委員会の私は、8ページ目の目標1と目標2に関しては、やはり、幼稚園、保育園や小学校、中学校、高等学校どの場所でも、いろいろな歳の子や、いろいろな成長過程な子がいると思うので、その中でも、一人一人に合わせて、本と触れ合える機会を作ってくれるというのは、とてもいい機会だし、いい目標だなと思いました。また、目標2は、私の小学校にも外国ルーツの子も多くいるので、そのように、いろいろな子たちが、読書の機会を手に入れられるのがとてもいいなと思いました。
2	小学5年生	特に変更はないいいとおもいます。
3	小学5年生	僕は、あまりほんを、よまないで、いいとおもいます。
4	小学2年生	とても良い考えだと思います。
5	小学2年生	とても良い考えだと思います。
6	中学2年生	ありがたい活動がたくさんあってよいなと思った。
7	小学2年生	ぼくは、すごくほんをよむのがすきなので、このようなけいかくがあるとすごくうれしいです。
8	中学1年生	とても良いと感じた
9	小学3年生	子供と本との出会いは、人間形成の上で絶対大切な事と思っています。 障害を持ったお子さんへの配慮や、年齢に応じた取り組みなどが組み込まれ、大変良い計画と感じました。
10	小学4年生	いろいろな目標立てていたので全部の目標をクリアして本を読む人や本が好きな人ができたらいいなと思いました。
11	小学4年生	〔目標3〕家庭・地域・学校・関係機関における読書環境の整備と読書活動の充実①・②の図書館と学校や施設の連携・支援体制の充実、電子書籍の活用、学校における読書時間の確保、調べ学習への支援、学校図書館へ司書を派遣して機能を充実、学校図書館資料の充実、に期待ができると思った。
12	小学4年生	この読書活動計画素案を読んで凄い取り組みを目指していて、凄いと思います。
13	小学4年生	外国人の人は本を読めないし日本語の本を見ても面白そうとは思わないので外国人用の本を日本においておくことは大事だと思った。 読書が嫌いな人もこんなにいるんだと意外に思った。
14	小学4年生	本を読まない子以外にも入院していて本を読めない子、外国人の子などいろいろなひとに本を読んでもらうためにいろいろな対策を打っているのだなーって思いました。
15	小学4年生	いいと思った
16	小学4年生	素案を読んで、文京区が0才～18才の人が本を読むことが好きになるような取り組みが分かった
17	小学4年生	文京区が子供たちが本と出会い読書の楽しさを感じられるような取り組みをしていることが分かった。
18	小学4年生	文京区が子供に本を読ませる環境を整えていて、子供に読書が楽しいと思わせたい、とゆう意思が凄く伝わりました。

19	小学4年生	計画の目的を詳しく知れたことで何をしようとしているのか具体的に知り、この素案を見て普段あまり本を見ない僕も本を積極的に読もうと思いました。また、本の楽しさが知れたら、友達などにも楽しさを伝えていこうと思います。
20	小学4年生	本を読むことが大切だと思いました。 色々な活動をしていることがわかりました。
21	小学4年生	目標2多様な子供たちへの読書機会の提供について、普通の人と違い、苦勞している人にも目を向けて、読書できる環境を作ろうとしていることにおどろきました。 目標3～5について表に表すのがわかりやすく、とてもいいと思いました。
22	小学4年生	本を読む機会がなくなっていることがわかり本を読む機会をつくるために文京区は0歳～18歳の子供たちに本が身近な存在になり本をたくさんの人に読んでもらうためにたくさんの計画を立てていることがわかりました。
23	小学4年生	文京区が私たちに読書をすすめてくれるとしり、もっと読書にはげみようとおもいました。
24	小学4年生	私もあまり、本に興味がなく、いつものようにあそんでいました。ですがこのような計画を見てみると、読まない人のためにがんばっていくれていることがわかり、本に興味を持つように家に帰ったら本を読んでみる、ということをしてみようとおもいました。
25	小学4年生	今までは読書があまり好きではなかったけど、素案を読んで読書を試みようと思いました。
26	小学4年生	本を読まない人数で高校生が半分なことが驚きました。 色々な活動をしてると知って本を読もうと思いました。 あとまとめの取り組みの所取りみみになってました。
27	小学4年生	その計画で皆さんが、自分の好きな本にであえるといいです
28	小学4年生	文京区の人たちが読書のことを推進しているのは知らなかったの、これからは今までよりももっともっと本を読みたいと思いました！
29	小学4年生	色々な活動をしていることが分かりました。
30	小学4年生	文京区は、いろいろな取り組みをして、子供たちに読書を楽しめるように計画しているから、これからは、本を大切に読もうと思いました。
31	小学4年生	文京区は子供たちのためにたくさんの目標や取り組みしてありがとうございます。私もいっぱい本を読みます。
32	小学4年生	いっぱい考えているんだとかんしんした マンガばっか読んでちゃだめだと思った
33	小学6年生	僕は学校図書館に行きません 図書の授業を増やしましょう
34	小学6年生	年齢が上がると本を読まなくなっていくから中学生～高校生への読書活動推進計画に力を入れる といいと思う
35	小学6年生	本が好きな人にとってはうれしと思う、でもこれをやっても読まない人は読まない気がする。
36	小学4年生	本を読むのが少し嫌いだったけど素案を読んで本人興味を少しもちました。
37	小学6年生	本を読みたいけど読みたい本がない、という人がいるのであれば私はこの案に賛成です。なぜなら、幼いころからの読書活動は知力の発達を促し、大人になった時の読解力、また語彙力の向上につながりこの区に住む子供たちの知能の向上につながるからです。また、タブレット書籍等の機械などで本を読むということをやすることで紙ではなくとも本とふれあう、という行為をすることでノンフィクション作品の本を読む機会を増やし、世間で、過去にあったことを把握できると思ったからです。

38	小学6年生	子供がたくさん本を読めるように、こんなにたくさんの取り組みがあることは知らなかった。いとこに読み聞かせしたり、妹と一緒に本を読んだりしているから、引き続き毎日読もうと思った。
39	小学6年生	年齢が上がるにつれだんだん忙しいとかいろいろな理由で本を読まなくなることに驚きました。私は、いつもはあまり本を読もうとは思わないけど、そういうようなことをしてくれたら、私みたいに本を読んでみようかなと思う人もいるんじゃないかなと思いました。
40	小学6年生	読書をする子どもが減ってきているから、様々な対策を考えていてすごいと思いました。
41	小学6年生	具体的に様々な人たちに本を読んでもらう取り組みがあって、すごいとおもいました。読書をしない子供が意外と少なくてびっくりしました。
42	小学4年生	とてもいい素案だと思いました。本を読む人が増えるといいですね。
43	小学6年生	いい計画だと思いました。
44	小学4年生	一切興味がわきませんでした。でもなとなーなーくやりたいことがわかりました。
45		インターネット上でも本を読めるようにする、最新の本をそろえる、という計画は読書に興味を持らうことに有効だとおもいました。
46	小学6年生	0歳から18歳までの子供たちが本を読むために大人の人たちがいろいろな工夫をしているんだなと初めて思いました。また、子供たちが本とたくさん出会い読書の楽しさを感じられるように計画を立てていてありがたいなと思いました。
47	小学6年生	読書が好きな人が小、中、高と50%以上だったことにびっくりしました。素晴らしい計画だと思いました。
48	小学4年生	良く分かった
49	小学6年生	障害のある子どもや、これからパパ、ママになる人へのやわらべ歌など様々な人に向けての図書の本があることを知って、様々な年代の人が楽しめる計画をしていて、とても良いなと思いました
50		全体的にすごく良いと思った。学校で読書の時間があるけど、もっとしっかりとってほしいと思いました
51	小学6年生	文京区の子どもたちが本とたくさん出会い、読書の楽しさを感じて、未来を豊かに生きていくための力を育めるように、区全体で応援していきます。
52	小学6年生	とても良いと思います
53	小学6年生	本を読むことは大切なことなので、この機会に本を読む人が一人でも多くなればいいですね！
54	小学6年生	未来を豊かに生きていくための力を育めるように、区全体で応援していきます が心に残りました 応援しているところを応援します
55	小学6年生	色々な人が本を読むことで未来を豊かにしていくということが大事だとわかりました
56	小学6年生	iinnjanaisuka
57	小学4年生	本当に本を読んでほしいことがわかった。 でも僕は、まんがなどしかよみません。
58	小学6年生	iinnjanaisuka
59	小学6年生	素晴らしい計画だと思いました。

60	小学4年生	とても良い計画だと思いました。僕も正直、本が嫌いですが、デジタル本などの、こどもが楽しく読める本があれば、ぼくも本が好きになると思います。他にも、目が見えない方用の本が出版されたら、もっといろんな方が本を読めるようになれると思います。
61	小学6年生	私も読書は好きだから、いいなと思いました。
62	小学6年生	読書をしたことのない人への具体的な提供が分かった。自分も最近本を読めていないからこのような提供はとてもいいと思った。
63	小学6年生	小学生から中学生にかけて本を読まなくなってしまう人が多くなる 私自身が中学生高校生になっていくので、目標1の 「中学生・高校生を対象としたサービスの充実」がすごく楽しみになりました。
64	小学6年生	とてもいいチャンスだと思います
65	小学6年生	いろいろな団体、大学、本屋と協力して、子どもの読書活動をもっと活発させていくのが楽しみです
66	小学6年生	0歳から18歳までの子供たちが本と出会って本を楽しむというところがすごくいいと思いました。
67	小学6年生	この計画は読書活動を進めるうえでとても大事なものだと思います。僕は読書は好きなのですが、勉強をしなくてはならないのでしたくてもできません。
68	小学6年生	前まで本にあまり関心がなかったが、この文京区子ども読書活動推進計画を読んで読書が嫌いな人でも楽しめることを知り、すき間時間があったら本を読んでみようと思った。
69	小学6年生	すごいと思った
70	小学6年生	本との関わりを深めることが出来るからいいと思う
71	小学6年生	本を安心して読める場所をつくることは大切だと思った!!!!
72	小学6年生	とてもいいチャンスだと思います
73	小学6年生	自分でも読み聞かせをしてみたいくなりました。 とてもいい案だと思います。
74	中学1年生	乳幼児から高校生まで、家庭・学校・図書館などそれぞれの場で、子どもが本に出会える機会と環境を提供しているということに気づいた
75	中学1年生	子ども読書活動推進計画の素案を読んでとても良い計画だと感じました
76	中学1年生	読書をするのが難しい人や、本を読むのが苦手な人などの、読書が好きじゃない人にも本を読んでもらえるように新しく様々なものを作っていることがすごいと思いました。病気や障がいを持つ人関係なく本を読めるように図書館の職員が取り組んでいていいなと思いました。
77	中学1年生	色々な団体との協力や、読書を進める活動の目標を知って、少し本を読んでみようかなと思った。
78	中学1年生	私は本読むのが好きだから、この活動を通して本の良さや魅力、目の不自由な子供などにも寄り添えるのは素敵だと思った。
79	中学1年生	様々な家庭や子供に向けた多種多様な読書機会の提供があり、素晴らしいと感じた。普及・啓発は誰でもできるものだから、積極的に自分から行動してみたい。
80	中学1年生	年々本とかかわることが減ってきているので良い取り組みだと思いました。
81	中学1年生	そこまで読書にこだわらなくてもよいと思います。本を読まない人は読まない、読む人は読むでよいと思います！

82	中学1年生	すごくいい計画だなと思いました。やはり普段から本に触れ合うことができたらいいなと思います。
83	中学1年生	子供に読書を勧めることはいいことだと考えました。
84	小学6年生	この素案はたくさんの子供たちに本を好きになってもらうためや小学生だけでなく赤ちゃんから高校3年生までの子供たちに本の楽しさを知ってもらうためにある。他にこれを読んでわかったことは僕も本をあまり読まない子供の中の一人だったということも分かった。
85	小学6年生	私の知っている中学校では読みたい本をリクエストすると毎月10冊ほど入れていることを知りました。できるだけ多く新しい本を入れるということをしたほうが良いと思いました。 入院中に子供たちに本を提供するのがすごくいいと思いました。また私は本を読むことが好きなのですがその理由を母に聞いてみたら小さいころ読み聞かせをしていたことがわかりました。なので小さいころから読み聞かせをしたほうが良いということを知りました。
86	小学3年生	そんなことをしていたんだと思いました
87	小学3年生	みんなが楽しめるのはいいとおもいます
88	小学3年生	いいとおもいます
89	小学3年生	いいと思います。
90	小学3年生	いいと思います、!
91	小学3年生	いいと思います。
92	中学2年生	読書が苦手の子供たちにもしっかりと対策していて良かったと思います
93	小学6年生	0歳から18歳までの子どもたちが、本と出会い、読書を楽しめる環境を整えることを願っていることがいいと思った
94	小学5年生	今まで読みたい本が見つからず、困っていたので今回の計画によって本が見つかることを楽しみにしています。
95	小学1年生	少しむずかしかったです。 いろいろな本を読めるのはうれしいです。 サバイバルシリーズがすきです。同じようないいシリーズがたくさんあるといいな。
96	小学5年生	いいと思います。
97	小学4年生	多様な子供たちへの読書会の提供が、とてもいいなと感じました。
98	小学4年生	細かいことまでしっかり描いていてよい
99	小学4年生	本をよみのが嫌いな人でも障害とかがあるひとでもどんな人でもほ本読みことができる環境を作ってあげたいという気持ちが伝わった。 今と子供たちに本の魅力に気付いてほしいという気持ちが伝わった。
100	小学4年生	私は本が好きですが、嫌いで読んでいない人もいるんだなと思った。5つも目標があることは知らなかった。0歳から18歳の子供のためにいろいろなことをしていることが分かった。
101	小学4年生	私は本が好きなのでこの計画で色々な人と本について語り合えるのはうれしいです また、もっともっと本を読みたいのでこの計画は、私は納得できます。
102	小学4年生	本を読んでもらうことをもっと楽しくしようとしていて すごいと感じました。
103	小学4年生	わからない(理解ができない) 少しだけなら0歳から18歳まで読んでほしいんですけどっけ? そんなことしか覚えてません
104	小学4年生	とても良いと思いました。子供たち全員が読書を好きになれるように工夫されていて、温かい気持ちになりました。

105	中学3年生	文京区が策定を進めている「文京区子ども読書活動推進計画（令和8年度～令和12年度）（素案）」は、現代における子どもたちの読書環境の大きな変化を真摯に受け止め、それに対応しようとする意欲的な内容を含んでいると気づきました。 まず、計画策定の前提として行われた現状調査から、デジタル化の波が子どもたちの読書行動に浸透している実態が浮き彫りになっています。小・中学生の一定数が、紙の書籍だけでなく、スマートフォンやタブレットを読書ツールとして活用しているという事実は、もはや**「読書」を「紙の媒体を読むこと」のみに限定できないことを示しています。これを受け、素案では、電子書籍サービスの充実や、デジタルコンテンツを含めた情報の提供に言及しており、図書館や学校図書館が、媒体を問わず優れたコンテンツを選定・紹介する「キュレーター」としての役割**を強化しようとしている点が注目されます。これは、子どもたちが情報過多の社会で良質な情報にたどり着くための羅針盤としての役割を担おうとする、現代的なアプローチであると感じました。 次に、計画策定のプロセスにおいては、子どもたちの参画を重視している点に強い感銘を受けました。区民意見の募集において、通常の詳細な素案に加えて、「子ども向け」の分かりやすい素案を作成しているのは特筆すべき点です。これは、計画の主たる対象である子どもたち自身に内容を理解してもらい、その意見を反映させようという、子どもの権利を尊重する具体的な姿勢の表れです。この取り組みによって、机上の空論ではない、現場の実態に即した、実効性の高い計画となることが期待されます。 全体を通して感じることは、この計画が、読書活動を「趣味」や「教養」といった側面からだけでなく、「生きる力」を育むための重要な土台として位置づけようとしている点です。デジタルとアナログの両面から読書環境を整備し、家庭、学校、地域、そして図書館が連携を強化することで、文京区の子どもたちが、生涯にわたって読書を通じて学び続けられる環境を提供しようとする強い意志が感じられました。
106	小学5年生	・読書をもっとしよおうと思いました。 ・小さい子供のための取り組みもあっていいと思いました。
107	中学2年生	読書に関わる機会が増えそうでいいと思いました。また、忙しくても読める短めの本などがあっていいなと思いました。
108	小学6年生	かなりいいので、このままでもいいんじゃないかと思いました。
109	小学1年生	読書はとても大事であり良い素案と感じております。
110	小学4年生	とてもいいと思います。
111	小学6年生	本を読むことが好きな人や、本を読みたい目の不自由な人など、いろいろな人がいることが知れた
112	中学1年生	とてもいいと思います。
113	中学2年生	とてもいい考えだと思った
114	中学2年生	やっぱり本を読む人はすくないので小さい頃から本を読むようにしたりすることは大切だと思いました。
115	中学2年生	年齢ごとに取り組みを変えたり、様々な種類の本や電子書籍を増やしたり、支援なども行っていて、読書が楽しいと思える人が増えそうだなと思いました。
116	中学2年生	句読点が多い
117	中学2年生	素晴らしい
118	中学2年生	素晴らしいと思った

119	中学2年生	いいんじゃないですか？まあ苦手な子に無理に読ませると苦手意識ができるので頻繁過ぎるのも考え物だとは思いますが、意外と学校とかで改めて絵本とか読み聞かせがあるとリラックスしたりしちゃうんですね。
120	中学2年生	小さい子は特に、イベントなどがあると興味を示しやすくなると思うので、イベントを開催することで本をもっと好きになってくれたり、興味を持ってくれる人が増えるのではないかと思います。
121	中学2年生	良い取り組みだなと思った
122	中学2年生	私も本を読む音が苦手なのでぜひ取り組んでほしい。
123	小学6年生	特にないが、しいて言えば、存在感がないからもうちょっとアピールしたほうがいいと思う。
124	小学6年生	普段から比較的本を読んできているので、学校図書館の充実や機能の向上が良いと思った、またインターネットから読むことができるようにするのもいいと思うが使いやすいように工夫してほしい。
125	小学6年生	この計画のような取り組みを多くの施設で行っていただけたら、多くの子供たちが本を読むようになると思います。
126	小学1年生	本を読むと何かもらえるなどのエキストラのプレゼントがあると、本をよむきっかけになるので、そのようなイベントを図書館などで増やすといいかと思います。
127	小学5年生	私たちに本を見させるために、イベントを出したりしているのは感銘を受けていますが、本にも何かゲームのような何かを加えたほうがいいと存じます。

【区の考え方】

計画への期待を感じました。みなさんの思いに応えられるように、よい計画をつくり、取り組んでいきます。図書館で行うイベントについても、みなさんが参加したくなるイベントや読書がワクワクする取組について考えていきます。

読書について

128	小学4年生	僕は読書が好きですが今はいろいろな理由で読書が嫌いになってしまう人がいるということを知ってとても驚きました。 そしてその読書が嫌いな人たちにも読書を好きになってほしいと思いました。
129	小学4年生	本に親しみたいと思いました
130	小学5年生	いろんな人が本に興味を持ったらいいと思った
131	小学4年生	読書に興味を持ってみようと思いました 私は本が好きなので周りの人に魅力をいっぱい伝えたいと思います
132	小学4年生	本の大切さを知ったから、これからは、沢山本を読みたいと思いました。
133	小学4年生	もっと、読書をしようとおもった
134	小学4年生	読書の大切さを知れました、なのでこれからはたくさん読書をしたいです。
135	小学4年生	これを読んでもっと本に親しみたくなりました。
136	小学4年生	読書の大切さを知った。
137	小学6年生	自分あんまり本は読まない。読むにしても、1週間に1回読むか、読まないか。それも、好きなサッカーや歴史の本など気に入った本しか読まないし、あまり本に興味がない。でも、人によってはこの計画について読みましたが、心を動かされる人も多くいると思うので、続けて行くと良いと思います。
138	小学4年生	読書をして、本ともっと親しみたいとおもいました。
139	小学4年生	本を読むのが大切だと分かりました

140	小学4年生	本を読むことが大切なことが分かった。本を読むといろいろな発達に影響するのが分かったから今までよりもっと本を読もうと思った。もっと本を読む人が増えるといいです。
141	小学4年生	みんながもっと本に親しめるように頑張っていきたい
142	小学6年生	自分もあまり本を読まないけど今回を機に読書をしようと思いました。
143	小学4年生	・本を読むことがすき ・漫画を読む事も好き
144	小学4年生	本に興味があったので図書館に今度行きたいと思います。 友達からおすすめの本を紹介してもらったので借りたいと思っています。
145	小学4年生	読書が改めて大事だなと思います
146	小学6年生	子供が本をあまり読んでいないことに驚きました。私は本がすきなので子供たちにもっと本を好きになってもらいたいです。
147	小学6年生	僕はあんまり読書は好きじゃないけど少し自分も読みたくなりました。 また、本の楽しさに築きたいです。
148	小学6年生	本はまったくすきじゃないので興味はありません。
149	小学6年生	少しでも読書をしたいと感じた
150	小学6年生	いろんな本を読むようになりました。
151	小学6年生	本を読むことが大切だと思った
152	小学1年生	本を読まない人たちのために、耳からきける本があるといいと思いました。
153	中学1年生	本を読む人は読む、読まない人は読まないでいいと思います。
154	小学5年生	私は本を読むのが好きな方なのですが、学年が上がるにつれて読書する人の割合が減るということで、とても驚きました。特に文京区は、受験勉強する人の割合が高いのもあるので納得の結果といえそうなのですが。好みの問題もありますし。うちの学校は読書好きの女子が多いと思います。
155	小学1年生	色々な場所で、たくさん本を読みたいです。電車の本がたくさんあるといいな。
156	小学4年生	読書は大事だと思います。またいっぱい本を読みたいです
157	小学4年生	本を好きだと思う人がもっと増えたらいいなと思いました。
158	小学4年生	本は大切だと思いました
159	小学1年生	本はいろいろなことをおしえてくれてクリスマスれる
160	小学1年生	ほんをよんでいるといろんなことがあたまにはいっていき、いろんなことをおぼえられてほんはせいかつのためにやくだつんだなおもいました。
161	小学1年生	本は色々なことが知れてうれしい。
162	小学1年生	ほんは、いろいろなことをおしえてくれる。
163	小学1年生	ほんはいろいろなことをおしえてくれる
164	小学1年生	ほんはいろいろなことをおしえてくれる
165	小学1年生	本は、いろいろなことをおしえてくれる
166	小学1年生	本はいろいろなことを教えてくれる。
167	小学1年生	ほんはいろいろなことをおしえてくれる。
168	小学1年生	ほんは、いろいろなことをおしえてくれる。
169	小学1年生	ほんはいろいろなことをおしえてくれる。
170	小学1年生	ほんはいろいろなことをおしえてくれる。
171	小学1年生	ほんはいろいろなことをおしえてくれる

172	小学1年生	ほんは、いろいろなことをおしえてくれたり、えがおにしてくれてほんがだいすきとおもいました。
173	小学1年生	ほんはいろいろなことをおしえてくれる
174	小学1年生	ほんは、いろいろなことをおしえてくれる。
175	小学1年生	ほんはいろいろなことをおしえてくれる
176		ほんは、いろいろなことをおしえてくれる
177	小学1年生	本は、いろいろなことを教えてくれる。
178	小学1年生	本は、いろいろなことをおしえてくれる。
179	小学1年生	本は、いろいろなことを教えてくれる。
180	中学1年生	読書が嫌いです
181	中学2年生	私もたくさん本を読もうと思いました。読みたい本をリクエスト出来るのは嬉しいなと思いました。
182	中学2年生	自分がもともと本が好きだったので、これから本の種類が増えるのが楽しみになりました。小説やノベルが好きな子が多いので、それらがこれから増えてくれたらうれしいなと思います。
183	小学2年生	本をもっと読んだほうが良いと思います
184	中学2年生	たくさん読書をしてより良い日本を作りたいと思った
185	小学1年生	小学校1年生ですが、図書の先生の読み聞かせが毎週あったり保護者の読み聞かせがあるなど本にふれる機会が多い学校のように感じられました。多くの本にふれるには低学年は読み聞かせが一番良いのかなと感じました。
186	小学4年生	私は読書が大好きだけど、たくさんの子が本を読まないから、みんなに読書を好きになってほしいです！！
【区の考え方】 読書の大切さが伝わり、もっと読みたい、友だちにも読んでほしいといった意見をたくさんいただきました。読書がきらいだったり、苦手だったりする人もいます。無理やり読ませたりするのではなく、大切な本と出会うことができるよう、本が身近にある環境をつくっていきます。		
アンケートの結果について		
187	小学4年生	読みたい本が無いのはもう少しさがしてみたり聞いてみたいらしい
188	小学5年生	この「文京区子ども読書活動推進計画素案」を初めて知ったので、アンケート結果の数値を見て驚いたことがたくさんありましたが、その中でも読みたい本がないというのは、気持ちはわかりました。
189	小学5年生	・学年が変わることにつれ、1ヵ月の平均が減っていることがわかる。 ・読書が嫌いな子でも好きになるように、取り組んでいることがわかる。
190	小学5年生	本が好きな人が多い
191	小学4年生	親が、「読み聞かせは子供の成長に役立つ」と、言っているのであれば、本を読もうと少し思った。
192	小学4年生	小学3年生、5年生、中学2年生、高校2年生のほとんどが外遊び、スポーツ、ゲーム、テレビが好きということがわかった。
193	小学4年生	最近はインターネットを使う人が増えて読書をする人が減ったため文京区で0歳から18歳までの人を対象にしてアンケートを取って読書をする人を増やすのは大事だと思いました。

194	小学4年生	高校2年生になったら勉強などで、忙しくて読書などができなくなるから今のうちに読書を、しようとおもいました。
195	小学6年生	世の中には本が読むことが好きな人や本を読むのが嫌いな人がいることが分かりました。
196	小学4年生	読書は生活に役立つということを知って読書の時間を大切にしていきたいと思いました。これからもっと読書に育みたいです。
197	小学4年生	だいたいの親は子供に本を読ませようとしていた。高校生の人のだいたいの人はゲームのほうが良いと言っていたことが分かった。
198	小学4年生	意外と本を読む人が少なかったのに私もあまり読まない中の一人になっているので少しずつ読むことを頑張ろうと思いました。
199	小学4年生	読書しない人が多くてびっくりした。
200	小学4年生	今までの子供たちは全然読書していないのをはじめてした。
201	小学6年生	アンケート結果を見て、年齢が上がっていくにつれ、読書をしない人の数が増えていることに気づきました。 私も、勉強で忙しかったり、自由時間ができてもゲームをしてしまったりして、読書をする機会があまりないので、読書をする機会を増えることで、もっと積極的に読書しようと思いました。
202	小学4年生	読書が嫌いな人がたくさんいるなと思った 僕も読書が嫌い
203	小学6年生	意外と読んでる子が多くてびっくりしました。
204	小学6年生	以外に、読んでいる人が多く、本が好きな人もいることが分かった。
205	小学6年生	僕は本をそこそこ好きだけど最近は本ではなくインターネットのほうが使っている人が多いんだなと思いました
206	小学6年生	低学年の読んでる冊数がすくなかった
207	小学6年生	読書が不人気の理由がわかり面白かった
208	小学6年生	大きくなっていけばなるほど、本を読まなくなっていることが分かった。
209	小学6年生	低学年のほうが読んでいる本の冊数がすくなくて驚いた。
210	小学6年生	本を読むことが好きな人は多いことが分かった 僕も本をたくさん読もうと思った
211	小学6年生	小学年の低学年のほうが数が少ないことに驚いた！！！！！！！！！！
212	小学6年生	本を読むことが好きな割合が多いのは中学生より小学生の方が割合が高いということに気づきました私は本を読むことがあまり好きではないのでこれからもっと本を読むようにして行きたいと思いました
213	小学6年生	私は、全然本をよまないけど意外と同年で本を読んでいる人は多かった
214	小学6年生	僕は本を読むことは好きではないけれど意外と好きな人が多いことに驚いた
215	中学1年生	・小学3年生は平均12.8冊 ・小学5年生は平均9.3冊 ・中学2年生は平均5.9冊 ・高校2年生は平均3.8冊 と1ヶ月で読む本が少なくなっていることが分かった。
216	中学1年生	小学3年生が一番本を読んでいる
217	中学1年生	中学生高校生の本を読む数が少なくなっていることを知り、これから自分が少しずつ本を読んでいこうと思います
218	中学1年生	中学生の本を読んでいる人の割合がすごく低い

219	小学4年生	本を読あまり読まない人が思ったよりも多いことが分かった。私は本を読むのが好きなので、一か月で50冊以上は読む。なので、1か月の小学五年生の平均を見てびっくりした。外遊びやスポーツ、テレビやゲームも好きだけど、本を読むのも楽しいので、もっと本を読む人が増えてほしい。
220	小学4年生	多くの家庭が本を読んでいることがわかりました。 私は、ほんをよむこつがすきなので、あまりという方にも好きになってもらいたいと思いました。
221	小学4年生	本が嫌い人が本が好きの人より多いことを気づいた。
222	小学4年生	80%本が好きでことがびっくりした
223	小学4年生	80%本が好きでことがびっくりした
224	小学4年生	読書をする人が想像していた2倍だった
225	中学2年生	本を読んでいる人が減ってきている
226	中学2年生	最近の子供は読書があまり好きな人はいないんだと感じた。たまには読書をするのもいいと感じた。
227	中学2年生	最近の子供は読書とかはしないでゲームをしたりしているということがよく分かった。 これを見て、もっと本を読もうと思いなおした。
228	中学2年生	最近の子供は本を読まないでゲームばかりするのであまりよくないと思った
229	中学3年生	中学生の読書好き率が小学生や高校生よりも低いのに驚きました。私自身は読書は好きですが実際読む時間がないのも事実なので、もっと読書の幅と時間を増やしていきたいと思います。(今は受験期なので、おそらくそのあとになります) 私の学校ではボランティア活動で近くの幼稚園に読み聞かせをしに行くというイベントがあるのですが、幼稚園生の約半分の家に51冊以上の本があることには驚きました。だからあんなに一喜一憂して楽しそうに読み聞かせを聞いてくれたのかなと納得もしました。
230	中学3年生	学年が上がるほど読まれている本数が減っている
【区の考え方】 アンケート調査を通じていろいろなことがわかりました。読書が好きな人が多いと感じた人がいましたが、少ないと感じた人もいました。読書のしかたは人によってさまざまです。みなさんの意見を計画につなげていきます。		
その他		
231	中学1年生	たしかにね
232	小学1年生	わからない。ハイエナの本などいろいろな本が読みたい。
233	小学5年生	,bufgggggggggg
234		7 g v t f d 背 x d t f h j g t d s 3 あ q 3 w z 4 x c v g b u h n i u g j n 6 5 7 6 i t y h r t g r s a A w r g f j d i u b d j g i r k m d x フ ィ ン v b k m h k ギ ー お 8 p 9 p : ; ・ l . k , j y h t r t r y d ふ g l h k ・ m . , j ち ゅ ゅ j l k ; ¥ ・ ; お い 5 え 4 y t ふ y g k j l k l y y t ふ g y k k y ち ゅ お f t j び h ふ い g j g j j t
235	中学2年生	いい話だ
236	小学3年生	行ったことないです
237	小学6年生	サイトが開けなくてわからなかった
238	小学4年生	iitoomoimasitaosietekateatou

239	小学6年生	とてもいい案だと思いますが、こんなことやるひまがあれば子供が遊ぶところを作ってほしいです。
240	小学6年生	読書いがいの推進計画があってもいいと思います。
241	中学2年生	ん
「特になし」など		
242	小学6年生	特になし
243	小学5年生	ない
244	中学1年生	特にないです
245	中学1年生	なし
246	小学4年生	あまりないです。。
247	小学4年生	とくになにない
248	中学2年生	ないです
249	中学2年生	ない
250	中学2年生	意見なんてねえよ～うるせえよ～
251	中学2年生	特になし？
252	中学2年生	ない
253	中学2年生	特にない
254	中学3年生	none

※学年欄が空欄は、回答がなかったもの。

文京区子ども読書活動推進計画

令和8年度～令和12年度

(案)

文京区教育委員会

目 次

第1章 計画策定の背景 ————— 1

- 1 子ども読書活動推進の意義
- 2 子ども読書活動に関する国・東京都の動向
- 3 文京区の取組

第2章 基本的な考え方 ————— 3

- 1 計画策定の意義
- 2 計画の性格
- 3 計画の期間
- 4 計画の対象年齢
- 5 計画の目標

第3章 子ども読書活動の現状と課題 ————— 5

- 1 乳幼児期における読書活動
- 2 児童・生徒の読書活動
- 3 区立図書館における読書活動
- 4 今後の取組

第4章 読書活動推進に向けた具体的な取組 ——— 16

- 1 取組体系図
- 2 具体的取組

第1章 計画策定の背景

1 子ども読書活動推進の意義

子どもの読書活動の推進に関する法律では、「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」としています。

読書を通じて子どもたちは広い世界を知り、未知の世界へ想像を巡らせ、様々な体験をします。それはまだ文字の読めない赤ちゃんへの読み聞かせに始まり、自ら本を読める年齢になってもずっと続きます。

読み聞かせやおはなしに耳を傾ける子どもたちの表情を見ると、作家が紡いだ言葉や画家が描いた絵の力と読み（語り）手とのコミュニケーションによって、絵本や昔話を楽しみ、いろいろなことを感じ取っていることがわかります。乳幼児期のこうした経験を経て、子どもたちは成長段階に応じて、興味や好奇心の広がりを本の世界で満たすとともに、本の中での経験が実体験をより豊かなものにしてくれます。

一方、子どもたちにとっての楽しみは無限にあり、読書はそのひとつに過ぎないかもしれません。さらに、限られた時間の中で、十分に読書を楽しむ時間がない状況もあり、引き続き、子どもたちの読書に対する関心を高めていかなければなりません。

また、子どもたちは日々成長しています。どんなに良い本であっても、その子にとって早すぎたり遅すぎたり、関心が無かったりすれば、楽しむことは難しく、子どもが適切な時期に適切な本と出会える環境を整えることも必要です。

本計画は、子どもたちが大切な本と出会い、読書の楽しさを知ることで、人生の一時期でしかない子どもの時代をより豊かに過ごせるよう、身近な大人たちが共に力を合わせながら、主体的に子どもの読書活動を推進するために策定するものです。

2 子ども読書活動に関する国・東京都の動向

(1) 国の動向

平成13年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」により、子どもの読書活動推進の基本理念が定められ、国及び地方公共団体において、子どもの読書活動の推進に関する計画を策定し、公表することが定められました。

国はこの法律に基づき、平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第一次）を策定し、その後、平成20年3月に第二次基本計画、平成25年5月に第三次基本計画、平成30年4月に第四次基本計画、令和5年3月に第五次基本計画を策定してきました。第五次基本計画では、不読率の低減や、多様な子どもたちの読書機会の確保、デジタル社会に対応した読書環境の整備などを掲げました。

また、この間、学習指導要領の改訂が実施され、学校図書館の利活用により児童・生徒の学習活動や読書活動の充実を図ることが規定されています。

さらに、令和元年、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）が施行され、障害の有無に関わらず全ての国民が等しく読書に親しめる社会の実現を目指し、読書環境の整備等の方針が示されました。

（２）東京都の動向

東京都は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受けて、平成 15 年 3 月に「東京都子ども読書活動推進計画」を策定し、すべての子どもが自主的に読書活動に取り組むことができるよう家庭・地域・学校のそれぞれが果たす役割とともに、子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性や取組を示しました。

また、「東京都の取組」と「区市町村に期待される役割」とを明らかにし、区市町村が読書活動を推進するための計画を策定する際の基本となるものと位置づけました。平成 21 年 3 月に第二次推進計画、平成 27 年 2 月に第三次推進計画、令和 3 年 3 月には第四次推進計画が策定され、基本方針として、①乳幼児期からの読書習慣の形成、②学習の基礎となる資質・能力の育成のための読書活動の推進、③特別な配慮を必要とする子どもの読書環境整備の推進、④読書の質の向上が示されました。

３ 文京区の取組

文京区では平成 8 年 2 月に「個が輝き、共に生きる文京の教育」を理念に掲げた「文京区教育ビジョン」を策定し、次世代を担う子どもたちの「生きる力」の具現化に努めてきました。豊かな知性と確かな学力や他人を思いやる心を身に付け、心身ともに健康で、人間性豊かな子どもの育成を目指し、平成 23 年 3 月に「文京区子ども読書活動推進計画」（平成 23 年度～平成 27 年度）、平成 28 年 3 月に第二次推進計画（平成 28 年度～平成 32 年度）を策定しました。そして、第三次推進計画（令和 3 年度～令和 7 年度）では、（１）発達段階に応じた読書機会の提供、（２）家庭・地域・学校・関係機関における子どもの読書環境の整備と読書活動の充実、（３）子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発、（４）地域団体等との協働による子どもの読書活動の活性化の 4 つの目標を掲げ、具体的な取組として 37 事業を計画し、毎年、進捗状況を調査しながら子どもの読書活動の環境を整備してきました。

第2章 基本的な考え方

1 計画策定の意義

「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条2項の規定に基づき、平成23年、平成28年及び令和3年に「文京区子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書環境を整備してきました。令和7年度をもって計画期間が終了することから、これまで取組んできた計画事業（37事業）の成果を踏まえるとともに、読書バリアフリー法の施行や教育におけるデジタル化の進展等、様々な社会状況の変化に伴う新たな課題等に対応するため、次期推進計画を策定します。

2 計画の性格

国や都の計画を踏まえつつ、文京区基本構想や文京区教育ビジョンに基づく教育目標、教育指針に則り、文京区におけるすべての子どもたちの読書活動の推進を図るための取組を体系的に示すものです。

3 計画の期間

令和8年度から令和12年度の5年間とします。

4 計画の対象年齢

0歳児からおおむね18歳までとします。

5 計画の目標

（1）発達段階に応じた読書機会の提供

乳幼児期からの読書習慣の確立のため、図書館をはじめ、家庭や幼稚園、保育園、児童館などにおいて、発達段階に応じて子どもが本に出会い親しむ機会がもてるよう取組み、さらなる充実を図ります。

（2）多様な子どもたちへの読書機会の提供

読書バリアフリー法を踏まえ、支援や配慮が必要な子どもや外国語を母語とする子どもなど、多様な子どもたちが読書の機会がもてるよう取組みの充実を図ります。

（3）家庭・地域・学校・関係機関における子どもの読書環境の整備と読書活動の充実

子どもが多く時間を過ごす学校や図書館等における、読書環境の整備と読書活動の更なる充実を図るため、各施設で計画的な環境整備に取り組めます。

また、学校図書館については、図書館との連携を図りつつ、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の向上を図ります。

(4) 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発

すべての子どもたちが読書に親しめるよう、図書館の利用促進を図るとともに、子どもの読書活動に関する理解と関心が深まるよう、SNS 等を活用するなど、保護者への積極的な働きかけを行います。

(5) 地域団体等との協働による子どもの読書活動の活性化

子どもの読書活動に関わる地域の個人・団体、大学等との協働による取組を推進します。

また、図書館及び学校図書館職員、ボランティアの研修の充実により、資質の向上と図書館の活性化を図ります。

第3章 子ども読書活動の現状と課題

文京区子ども読書活動推進計画（令和3年度～令和7年度）（以下、「推進計画」という。）の改定に向け、家庭や地域での子どもの読書活動の現状や実態を把握するため、令和6年10月から11月に「文京区子どもの読書活動に関するアンケート」（以下、「アンケート」という。）を実施しました。

アンケート及び毎年実施している推進計画の進捗状況調査の結果などから、子ども読書活動の現状と課題について記載します。

1 乳幼児期における読書活動

乳幼児期の読み聞かせは、絵本を通じた親子の楽しいふれあいの一つであり、赤ちゃんの心の成長を促すものと言われています。現在、区立図書館では、保健サービスセンターで行われている4か月児健診時に絵本を手渡す「ブックスタート」を実施しています。この事業は、絵本を開く楽しさを体験してもらい、保護者が読み聞かせを始めるよいきっかけとなっています。また、1歳6か月児には図書館デビューの案内とともに絵本とブックリストをプレゼントしています。

幼稚園児、保育園児の保護者を対象に行ったアンケートによれば、「ご家庭で本の読み聞かせなどをされていますか」という質問に、「ほぼ毎日している」「時々している」を合わせると、93.9%の家庭で読み聞かせが行われていました。「ご家庭に絵本は何冊くらいありますか」という質問に、「51冊以上」と答えている家庭が最も多く44.2%、「31～50冊」と答えている家庭が26.1%、「11～30冊」と答えている家庭は25.0%でした。

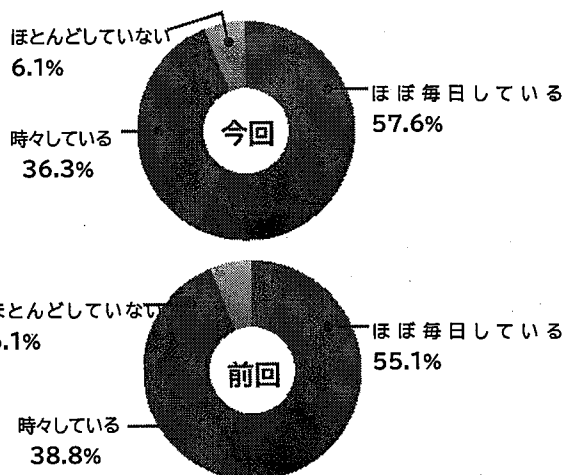
また、「読み聞かせは子どもの成長に役立つと思われますか」という質問に、ほとんどの保護者が「（役立つと）思う」と答えています。

乳幼児と接する教職員や保育士、図書館員が連携し、各々の施設における読書環境の整備に努めるとともに、子どもたちが読書習慣を身に着けるため、これから親となる方を含む保護者に対して、読み聞かせの大切さや絵本の選び方などについて啓発していくことが重要です。

● ご家庭で本の読み聞かせをしていますか？

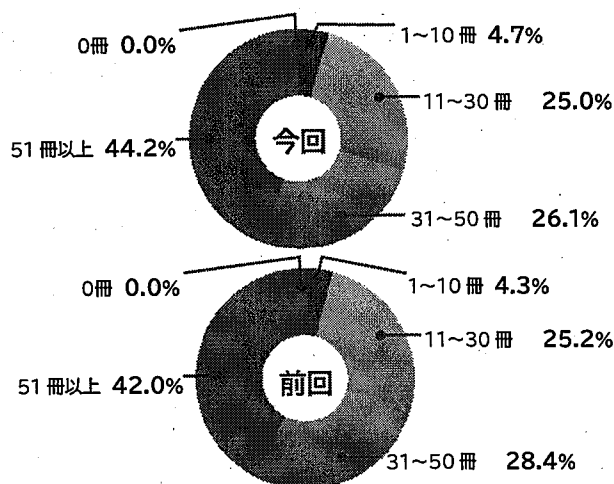
今回:令和6年11月 前回:令和2年10月(以下同じ)

ほぼ毎日している	491人
時々している	309人
ほとんどしていない	52人



● ご家庭に絵本は何冊ありますか？

0冊	0人
1~10冊	40人
11~30冊	213人
31~50冊	222人
51冊以上	377人



(1) 保育園での読書活動

日々の保育の中で、園児の年齢や興味、関心に応じた絵本や紙芝居などの読み聞かせを全園で実施しています。また、絵本コーナーを設置し、季節ごとの入替えなどを行いながら、絵本に親しめるよう工夫をしています。

また、アンケートでは、図書館から保育園への貸出を充実してほしいという意見

や、保育園での図書館資料の貸出・返却を望む意見などがあり、保育園と図書館との連携をさらに進めていく必要があります。

(2) 幼稚園での読書活動

絵本や紙芝居を幼児にとっての貴重な教材としてとらえ、幼児教育の中で読み聞かせや貸出を積極的に行っています。また、親子で絵本にふれる機会をつくるよう保護者に働きかけています。

アンケートからは、図書館から幼稚園への貸出を充実してほしいなどの意見があり、幼稚園と図書館との連携をさらに進めていく必要があります。

(3) 児童館での読書活動

幼児に対しては、絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。また、ストーリーテリング（おはなし会）の実施を促し、絵本や紙芝居に限らず様々なジャンルの本に触れる機会を増やしていくことが求められています。

(4) 地域での読書活動

「ふれあいいきいきサロン」「子育てサロン」で、パネルシアターや読み聞かせなどが実施されています。

2 児童・生徒の読書活動

アンケートによれば、文京区では小学3年生が1か月に読んだ本は12.8冊（前回13.0冊）、小学5年生は9.3冊（前回9.4冊）、中学2年生は5.9冊（前回1.7冊）、高校2年生は3.8冊となり、小学3年生と小学5年生は前回のアンケート結果より微減となりました。一方、中学2年生は前回より増えています。

また、1か月に1冊も本を読まなかった割合は、小学3年生で9.9%（前回6.4%）、小学5年生で14.1%（前回8.4%）と前を上回り、中学2年生は、14.4%（前回25.2%）と前回から大きく下回りました。今回初めて調査を行った高校2年生は47.9%という結果となりました。

さらに、「あなたは本を読むことが好きですか」という質問に対して、「好き」「どちらかといえば好き」と答えたのは、小学3年生で89.1%、小学5年生で80.5%、中学2年生で73.6%、高校2年生で80.9%でした。一方、「嫌い」の理由として、「めんどろくさい」「おもしろくない」が上位を占めており、小学校高学年からの世代が読書の楽しさを実感できなくなっていることがわかります。しかし、7割以上の子どもたちが読書が好きであるとの結果を踏まえ、面白いと感じる本との出会いや本を使った探求的活動を通して小学校高学年から中高生世代が切れ目なく読書に親しむための取組を強

化することが求められます。

また、「あなたが読書をしないのはなぜですか」という質問に対しては、小学5年生、中学2年生、高校2年生は、「テレビやゲームの方が好き」と答えた割合が最も高く、それぞれ、40.0%、42.4%、27.8%でした。小学3年生は、「外あそび、スポーツの方が好き」と答えた割合が最も高く、35.1%でした。

次いで、小学3年生は「テレビやゲームの方が好き」(31.8%)、小学5年生は「外あそび、スポーツの方が好き」(30.0%)、中学2年生は「読書がきらい」(35.9%)、高校2年生は「読みたい本がない」(27.0%)が続いています。高校2年生では、「勉強する、塾、習い事へ行く」も23.5%と高くなっています。

年齢が上がるに連れ、子どもたちの興味・関心の対象が広がり、読書時間の確保が難しくなっていく状況において、読書の楽しさを知ってもらう取組や読書へアクセスしやすい環境を整備することが求められています。

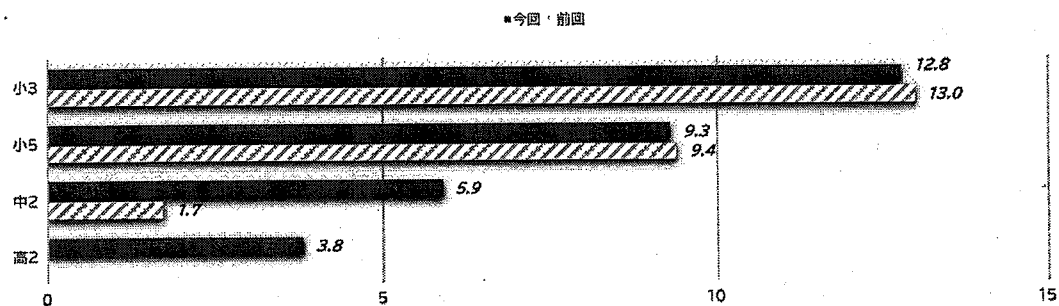
● この1か月に本や図鑑・百科事典を何冊読みましたか？

※ 辞書、学習参考書、まんが、雑誌、新聞は含まない。

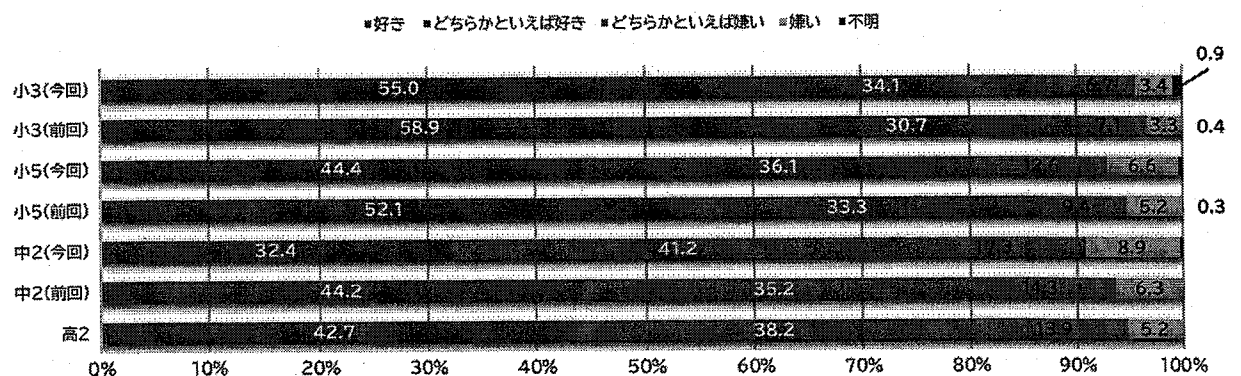
※ ()内は前回調査(令和2年10月)

	平均冊数
小学3年生	12.8冊 (13.0冊)
小学5年生	9.3冊 (9.4冊)
中学2年生	5.9冊 (1.7冊)
高校2年生	3.8冊 (ー)

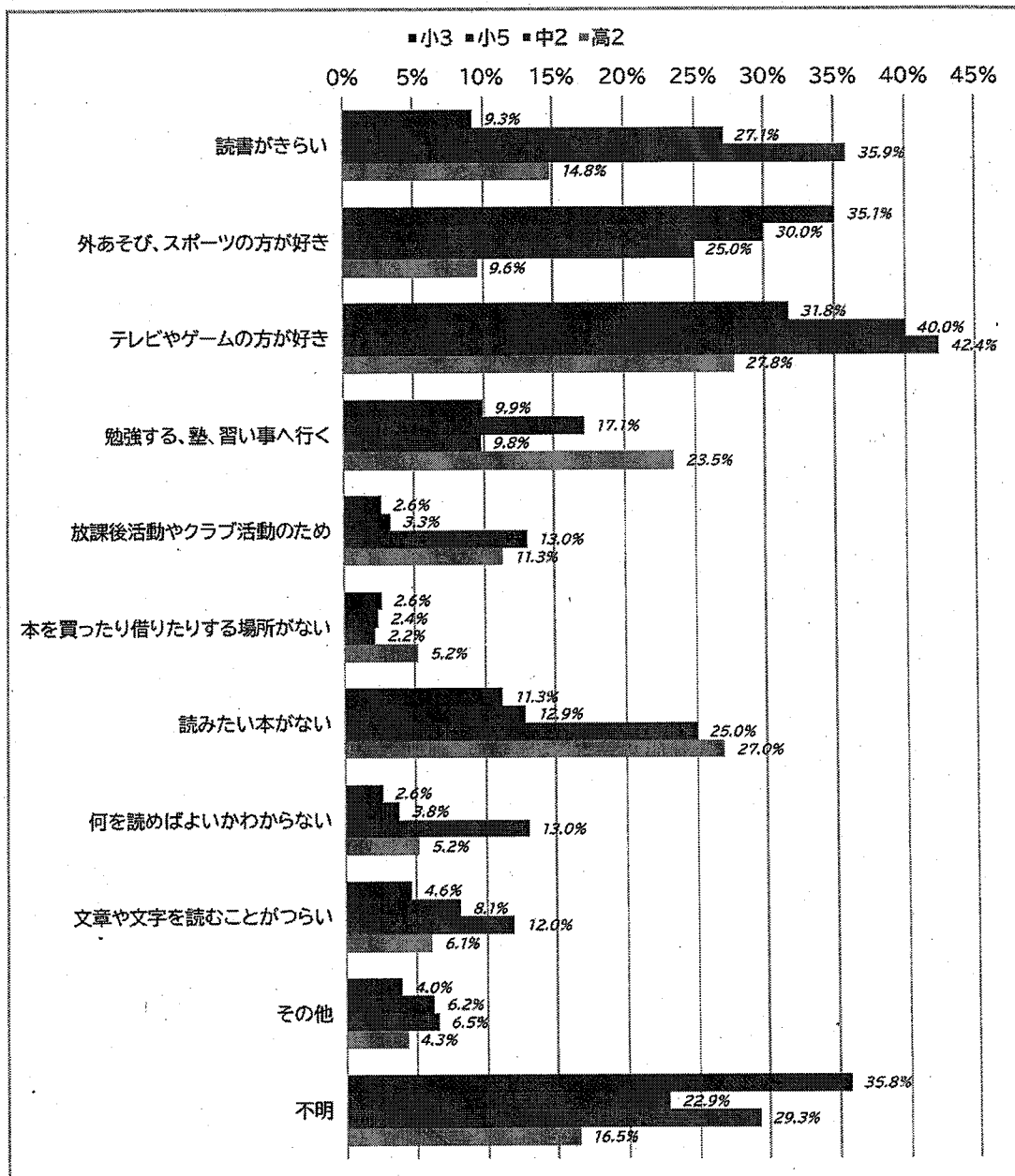
上段:今回(令和6年11月) 下段:前回(令和2年10月)(以下同じ)



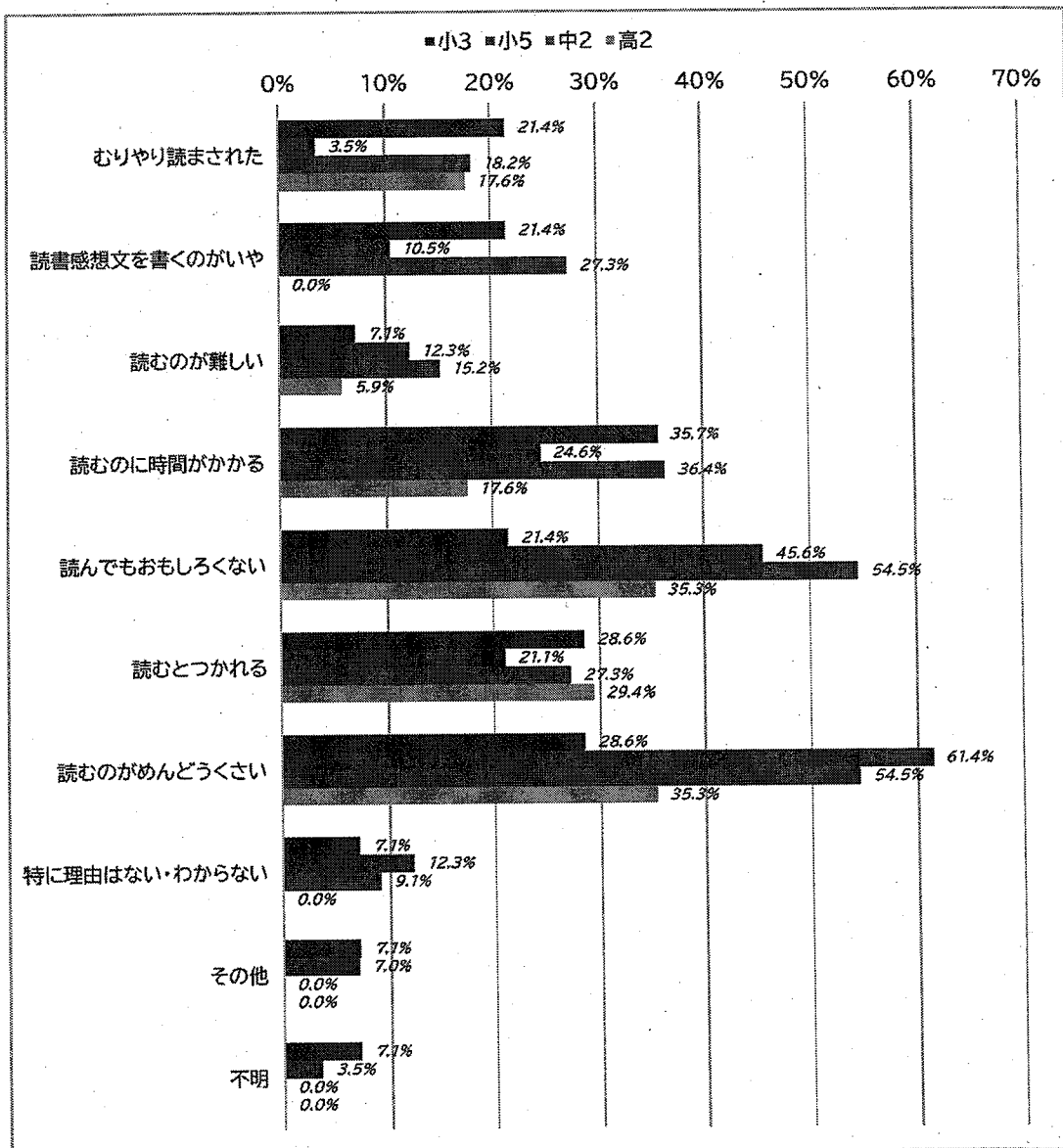
● あなたは読書(本や図鑑・百科事典を読むこと)が好きですか？



● 読書をしない理由(複数回答)



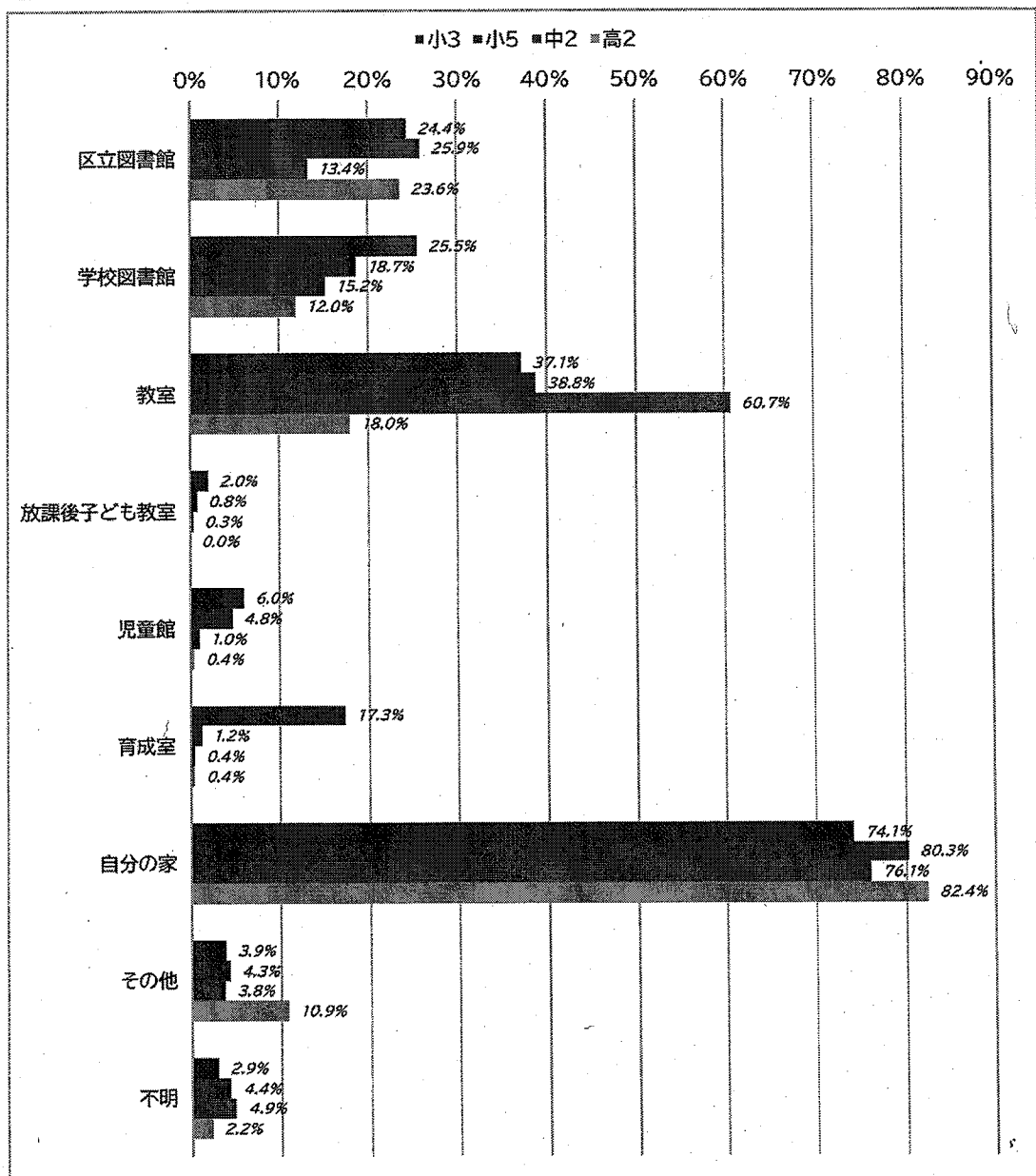
● 読書がきらいな理由(複数回答)



また、アンケートによれば、「読書をするのはどこですか」という質問に、どの年代も「自分の家」が最も多く、2番目に多かった場所は、小学3年生、小学5年生、中学2年生は、「教室」、高校2年生では「区立図書館」と答えています。小学3年生では 25.5%、小学5年生では 18.7%、中学2年生では 15.2%、高校2年生では 12.0%が「学校図書館」となっています。

子どもたちが過ごす教室や学校図書館、区立図書館も読書をするうえで重要な場所になっていることがわかります。

● 読書(本や図鑑・百科事典を読むこと)をするのはどこですか？(複数回答)



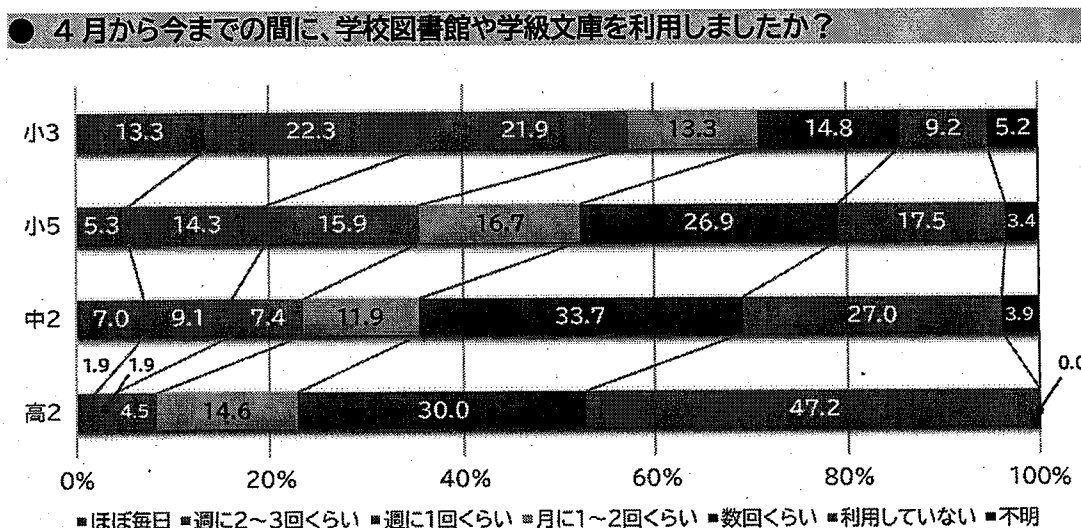
児童・生徒の読書活動を進めていくためには、身近な場所に適切な本があり、手に取りやすい環境をつくるとともに、発達段階に合った本を提供することが大切です。

また、本を読むことが苦手な児童・生徒にも、読書の楽しさを理解してもらえるよう積極的な情報発信を行うことが必要です。

(1) 学校での読書活動

すべての小中学校で朝読書など、読書時間の確保のための取組みを実施しています。また、小学校では、保護者による学校図書館のボランティアなどが、読み聞かせ等を活発に行っています。

さらに、各校では読書推進期間の設定、多読者表彰、ブックトーク、ブックリストの作成、おすすめコーナーの設置など特色ある読書活動に取り組んでいます。



学校図書館の利用については、小学3年生では85.6%、小学5年生では、79.1%、中学2年生では69.1%となっており、それぞれ前回より増加しました。高校2年生では、52.9%が利用していると答えています。

学校図書館は、児童・生徒の最も身近な読書センターとして、また、授業や調べものをするための学習センター・情報センターとしての機能を担っており、子どもたちの読書活動を推進していくために果たす役割は益々大きくなっています。

また、区立図書館から派遣している学校図書館支援員が、学校図書館長である校長、司書教諭や図書担当教諭、各クラス担任教諭と連携し、施設と蔵書の充実や、児童・生徒及び教員への授業支援に取り組んでいます。

学校図書館に整備すべき蔵書数の標準として、国は「学校図書館図書標準」(別表)を定めています。令和5年度末時点で、文京区の学校図書館のうち図書標準を達成した学校数は、近年の人口増、クラス増の影響もあり、小学校では全20校中16校、中学校では全10校中7校であり、全校が達成率90%以上となっています。引き続き、質と量ともに充実した蔵書構成の実現に取り組み、多様な子どもたちの読書機会を確保することが求められています。

(2) 児童館・育成室・青少年プラザでの読書活動

児童館・育成室には図書室・図書コーナー等があり、子どもたちは日常的に読書ができる環境にあります。

また、中高生に対しては、中高生向けの施設「青少年プラザ (b-lab)」と図書館との連携による読書環境の整備や居場所作りによって、中高生世代の読書率向上のための方策を検討していく必要があります。

3 区立図書館における読書活動

文京区の図書館は8つの図書館、2つの図書室と2つの取次窓口を設置し、区内のほとんどの所から1km以内に図書館を設置しています。また、すべての図書館には靴を脱いで上がって本が読める児童コーナーがあり、赤ちゃん連れの親子や子どもたちが利用しています。児童書は、全館で293,404冊(10代対象の本を含む・令和6年度末現在)の蔵書があり、年間貸出冊数は、1,215,183冊(令和6年度末現在)となっています。

子どもと本を結びつけるために、乳幼児と保護者を対象とした読み聞かせと手遊びの会や絵本や紙芝居などの読み聞かせの会、小学生を対象としたおはなし会など、発達段階に応じた行事を実施しています。また、図書館に親しみを持っていただけるよう人形劇や映画なども実施しています。

また、乳幼児向け「えほんがすき」、小学生向け「読んでみましょう」など、図書館員おすすめの図書リストを入園や入学時、夏休み前に全児童に配付しています。

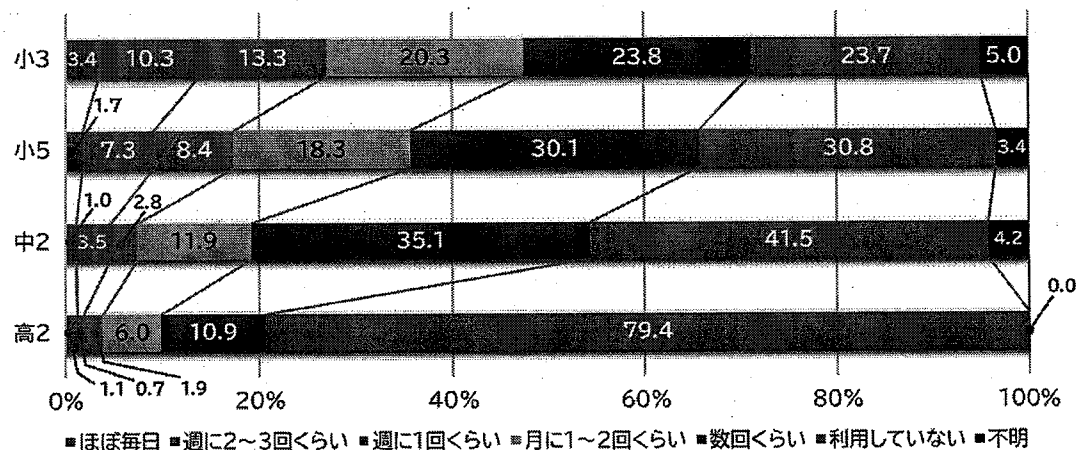
こうした行事や啓発を引き続き充実させていくとともに、読書相談に応じたり、子どもの成長に合った本を紹介していく職員の資質の向上を図ることが大切です。また、図書館で発行しているブックリストは、図書館を利用していない子どもや本を読まない子どもが、読書意欲を持てるように内容の充実を図る必要があります。

中学生に対しては、入学時に全生徒に図書館の利用方法やおすすめの本のリストを盛り込んだ「ぶんきょう来ぶらり〜」や、夏休みの前には図書リスト「yomitan-読書探偵-」などを配付しています。また、中学校などからの、職場体験を各館で受け入れています。

中高生世代は読書量、図書館の利用頻度も減り、また個人差も大きくなっています。アンケートによれば、区立図書館の利用について小学3年生は71.1%、小学5年生は65.8%、中学2年生は54.3%、高校2年生は、20.6%となっています。

子どもたちの興味や関心に応える図書の充実に加え、新しい本やアクセシブルな図書を積極的に取り入れていくことが求められています。また、学習環境の整備により、利用しやすい図書館づくりを進めていきます。

● 4月から今までの間に、文京区立図書館を利用しましたか？



4 今後の取組

推進計画策定後5年が経過しましたが、読書バリアフリー法を踏まえた対応や外国語を母語とする児童・生徒など、多様な子どもたちへの対応や、教育におけるデジタル化の進展など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。

これまでの取組の成果や課題などとともに、アンケート結果や進捗状況調査の結果などを踏まえ、子どもたちを取り巻く読書環境の変化にも対応し、読書活動を推進していくために組織的な取組を図っていきます。

第4章 読書活動推進に向けた具体的な取組

1 取組体系図

事業番号	取組	所管
目標1 発達段階に応じた読書機会の提供	1 ブックスタート事業の充実	真砂中央図書館 保健サービスセンター
	2 ブックスタートのフォローアップ事業の充実	真砂中央図書館
	3 おはなし会や読み聞かせ等本に触れる機会の提供	幼稚園 保育園・児童館
	4 発達段階にあった図書館行事の充実	真砂中央図書館
	5 子育て支援施設における読書活動の充実	子育て支援課 子ども家庭支援センター
	6 ブックリスト(推薦図書)の作成	真砂中央図書館
	7 中高生世代を対象としたサービスの充実	真砂中央図書館
目標2 多様な子どもたちへの読書機会の提供	8 特別な支援を必要とする子どもへのサービス及び資料の充実	真砂中央図書館
	9 特別支援学級等配慮が必要な児童・生徒の読書活動の推進	小・中学校
	10 外国語図書の整備・充実	真砂中央図書館
	11 日本語を母語としない子どもの読書活動の推進	真砂中央図書館
	12 入院中の子どもへのサービスの充実	真砂中央図書館
目標3 家庭・地域・学校・関係機関における子どもの読書環境の整備と読書活動の充実	13 図書館と学校や施設との連携・支援体制の充実	真砂中央図書館 児童青少年課 幼稚園・小・中学校 保育園・児童館
	14 幼稚園・保育園・児童館等の図書と設備の充実	幼稚園 保育園・児童館
	15 乳幼児とその保護者が図書館を利用しやすい環境作り	真砂中央図書館
	16 電子書籍の活用	真砂中央図書館
	17 学校における読書時間の確保	教育指導課 小・中学校
	18 読書指導計画の策定	小・中学校

目標3 「読書」 家庭・地域・学校・関係機関における子どもの読書環境の整備と読書活動の充実	19	学校における読書活動の推進	小・中学校
	20	調べ学習への支援	真砂中央図書館 小・中学校
	21	学校図書館への人的支援による機能の充実	真砂中央図書館 教育指導課 小・中学校
	22	学校図書館資料の充実	学務課
	23	高等学校図書館との連携・支援体制の構築	真砂中央図書館
目標4 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発	24	保護者等への啓発	真砂中央図書館 幼稚園・小・中学校 児童青少年課 保育園・児童館
	25	子どもへの啓発	真砂中央図書館
	26	プレママ・プレパパへの啓発	真砂中央図書館
	27	文京区の子ども読書活動に関する情報窓口(ホームページ)の充実	真砂中央図書館
	28	子どもの居場所としての機能の推進	真砂中央図書館
	29	子ども向けホームページの充実	真砂中央図書館
	30	「文京区子ども読書活動推進計画」実施のための進行管理	真砂中央図書館
目標5 地域団体等との協働による子どもの読書活動の活性化	31	職員・教員の研修の充実	真砂中央図書館 教育指導課 小・中学校
	32	図書館職員の研修の充実	真砂中央図書館
	33	区内の大学等との連携の推進	真砂中央図書館
	34	区内にある児童図書出版社や書店との連携の推進	真砂中央図書館
	35	区関係機関との協力・連携体制の推進	真砂中央図書館
	36	図書館ボランティア(ライブラリーパートナー)の育成と連携	真砂中央図書館
	37	学校図書館のボランティアへの支援	真砂中央図書館
	38	地域社会における読書活動を推進する団体等との連携の推進	真砂中央図書館 社会福祉協議会

2 具体的取組

目標 1 発達段階に応じた読書機会の提供

乳幼児期からの読書習慣の確立のため、図書館をはじめ、家庭や幼稚園、保育園、児童館などにおいて、発達段階に応じて子どもが本に出会い親しむ機会がもてるよう取組み、さらなる充実を図ります。

1	事業名	ブックスタート事業の充実	所管課	真砂中央図書館 保健サービスセンター
内容	保健サービスセンターで実施される4か月児健診時に、絵本の読み聞かせを行い、絵本や図書館の紹介が入ったブックスタートパックを手渡し、親子のふれあいを通した本との出会いのきっかけ作りとする。			
現況		目標		
配付人数1,721人:対象者の96.1%(令和6年度)		4か月児健診参加者全員への配付を継続するとともに内容の充実を図り、図書館利用につなげていく。		

2	事業名	ブックスタートのフォローアップ事業の充実	所管課	真砂中央図書館
内容	ブックスタートから継続して読書活動が行われるように、読み聞かせを行い絵本を配付する「としょかんとなかよし」を実施する。また、図書館バッグについては、新規登録した未就学児全員に配付する。			
現況		目標		
1歳6か月児を対象 配付数1,029袋:対象者の54.7%(令和6年度)		SNS等を活用し、絵本をとおした「ことば」や「語りかけ」の大切さを伝えるとともに、図書館利用及び登録につなげていく。また、配付する絵本を見直すとともに、乳幼児向け行事の充実を図る。		

3	事業名	おはなし会や読み聞かせ等本に触れる機会の提供	所管課	幼稚園 保育園・児童館
内容	日々の活動の中におはなし会や絵本・紙芝居の読み聞かせを積極的に取り入れ、子どもの想像力や豊かな心を育てる。			
現況		目標		
各施設で読み聞かせやおはなし会を実施し、絵本コーナー等も設置している。		図書館等との連携を強化し、子どもたちの身近な場所に本を置き、様々な本に触れる機会を増やすことでさらなる充実を図る。		

4	事業名	発達段階にあった図書館行事の充実	所管課	真砂中央図書館
内容	乳幼児から中高生世代まで発達段階にあった行事を充実させ、子どもが本に親しむ機会を提供する。			
現況		目標		
乳幼児向け読み聞かせの会や、小学生向けおはなし会、中高生向け読書会等を実施している。 乳幼児向け 実績:275回(令和6年度) 小学生・中高生向け 実績:575回(令和6年度)		世代ごとの需要にあった行事を企画するとともに、図書館員のスキルアップによる内容の充実を図り、新規参加者が増加する取組を実施する。特に、小学生を対象としたイベントの充実や中高生世代への広報を工夫し、来館や行事の参加につなげていく。		

5	事業名	子育て支援施設における読書活動の充実	所管課	子育て支援課 子ども家庭支援センター
内容	「びよびよひろば」や「子育てひろば」等の子育てを支援する施設で、絵本コーナーの設置や読み聞かせ等を実施する。			
現況		目標		
子育て講座等で絵本を活用している。 各施設で読み聞かせを実施している。		団体貸出や読み聞かせ等、図書館との連携を図る。親子で読書に親しむ機会を増やすため、本を手にとりやすい環境を作り、読み聞かせ等を引き続き充実させる。		

6	事業名	ブックリスト(推薦図書)の作成	所管課	真砂中央図書館
内容	乳幼児から中高生世代まで発達段階に合った多様なブックリストの作成・配付を行い、読書のきっかけを作る。			
現況		目標		
乳幼児向けに「えほんがすき」、小学生に「読んでみましょう」、「よんでみましょう2025」、中学生に「yomitan」等、発達段階にあったブックリストの作成・配付を行っている。		世代に合わせた推薦図書の紹介等、引き続き内容の充実を図り、周知を行う。また、高校生向けのブックリストを作成する。		

7	事業名	中高生世代を対象としたサービスの充実	所管課	真砂中央図書館
内容	中高生向けの図書館ホームページの充実とともに、中高生コーナーや専用席を設け、資料収集や展示を工夫して読書環境を整え、中高生世代の利用促進を図る。			
現況		目標		
中高生世代(13～18歳)の貸出数:61,130冊 (令和6年度)		SNSを活用したPRや魅力的で使いやすい中高生コーナーの展開を通して、中高生世代の読書への意欲を高める。 学生ボランティアとの協働による同世代のお勧め本の展示やサインの工夫など、中高生の参画による取組みの充実を図る。		

目標 2 多様な子どもたちへの読書機会の提供

読書バリアフリー法を踏まえ、支援や配慮が必要な子どもや外国語を母語とする子どもなど、多様な子どもたちが読書の機会がもてるよう取組みの充実を図ります。

8	事業名	特別な支援を必要とする子どものためのサービス及び資料の充実	所管課	真砂中央図書館
内容	読書バリアフリー法を踏まえ、誰もが読書を楽しむことができるよう図書館サービスの拡充と資料の充実を図る。			
現況		目標		
デージーや点字図書、布の絵本等を製作している。 アクセシブルな資料の充実を図るとともに、一部の館で「りんごの棚」を設置している。		読書バリアフリー法に対応し、デージー、点字図書、大活字本、布の絵本に加え、電子書籍、オーディオブック、LLブック等、多様な資料を収集し提供する。 すべての子どもたちが楽しめるような行事を企画・実施する。 「りんごの棚」の設置館を8館に増やす。		

9	事業名	特別支援学級等配慮が必要な児童・生徒の読書活動の推進	所管課	小・中学校
内容	支援が必要な子ども一人ひとりに配慮した読書活動の工夫に努める。			
現況		目標		
アクセシブルな資料を収集している。児童生徒の障害特性を考慮した図書を選定し、読み聞かせやパネルシアター等読書の意欲の向上を図る工夫を行っている。		学校図書館と連携を図りながら、児童・生徒の障害の特性等を考慮しつつより充実を図る。引き続きアクセシブルな資料の収集を進める。日本語を母語としない児童・生徒に向けた図書を購入する。		

10	事業名	外国語図書の整備・充実	所管課	真砂中央図書館
内容	外国語図書を幅広く収集整理し、外国語を母語とする子どもや帰国児童・生徒など、必要とする子どもの読書活動を支援する。			
現況		目標		
各館で外国語の絵本等を収集している。		英語以外の外国語図書の充実を図り、文化、生活がわかる本や児童文学等、広く収集する。		

11	事業名	日本語を母語としない子どもの読書活動の推進	所管課	真砂中央図書館
内容	外国語による行事の実施や日本語の多読資料の収集により、日本語を母語としない子どもの日本語習得と読書活動を支援する。			
現況		目標		
各館で外国語の絵本等を所蔵している。一部の館で英語による行事を実施している。		やさしい日本語を使った図書など、日本語の多読資料を広く収集する。また、ボランティアとの協働により、言語・文化的に多様な背景を持つ子どもたちが共に楽しめる行事を実施し、読書に親しむきっかけ作りとする。		

12	事業名	入院中の子どもへのサービスの充実	所管課	真砂中央図書館
内容	小児病棟等病院のニーズを汲み取り、病院と連携した図書館サービスを提供する。			
現況		目標		
病院の小児病棟に対する団体貸出を行っている。		病院へのニーズ調査を継続し、団体貸出やおはなし会を通して、入院中の子どもたちに読書の機会を提供する。		

目標 3 家庭・地域・学校・関係機関における子どもの読書環境の整備と読書活動の充実

子どもが多く時間を過ごす学校や図書館等における、読書環境の整備と読書活動の更なる充実を図るため、各施設で計画的な環境整備に取り組めます。また、学校図書館については、図書館との連携を図りつつ、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の向上を図ります。

13	事業名	図書館と学校や施設との連携・支援体制の充実	所管課	真砂中央図書館 児童青少年課 幼稚園・小・中学校・ 保育園・児童館
内容	区内の子どもと関わりのある各施設と連携して、ブックリストの配付、団体貸出、出張おはなし会、リサイクル図書の提供や情報交換等を行い読書活動を支援する。			
現況		目標		
各施設が団体貸出や行事等で図書館を利用している。		学校図書館や各施設との連携を強化し、団体貸出、出張おはなし会などの取組みや、 <u>図書館見学や職場体験の受け入れを積極的に行う。</u> <u>また、幼稚園・保育園に対して図書館行事への参加について周知する。</u>		

14	事業名	幼稚園・保育園・児童館等の図書と設備の充実	所管課	幼稚園・保育園・児童館
内容	発達段階に合わせ、子どもが興味や関心を持った本、子どもに薦めたい本を充実させる。また、子どもが自由に本を選べるよう親しみやすい環境を整備する。			
現況		目標		
絵本を中心に所蔵し、季節や行事に合わせた展示コーナーを設けている。		団体貸出等を用いて公共図書館と連携を図り、図書の充実と環境の整備を進める。		

15	事業名	乳幼児とその保護者が図書館を利用しやすい環境作り	所管課	真砂中央図書館
内容	乳幼児向け絵本や育児に関する図書を充実させ、親子で楽しく安心して利用できる環境を整備する。			
現況		目標		
0歳～6歳児の貸出数 264,903冊(令和6年度)		子どもたちの興味や関心に応える資料を選定・提供する。親子連れが気兼ねなく図書館を利用できるよう周知するとともに、一般の利用者への周知・啓発を行う。 また、図書館の改修等の機会を捉え、児童コーナーの充実を図る。		

16	事業名	電子書籍の活用	所管課	真砂中央図書館
内容	電子書籍の特性を生かし、読書支援及び学習支援を実践する。			
現況		目標		
児童書 1,608冊(令和7年3月末日現在) 児童への貸出数 10,052件(令和6年度)		子どもたちの読書意欲を喚起するため、電子書籍としてのニーズが高いジャンルの資料の充実を図る。また、小学生及び中高生世代を対象に、18歳まで利用可能な電子書籍ID・パスワードを交付する。		

17	事業名	学校における読書時間の確保	所管課	小・中学校
内容	学校活動における読書時間の確保に努める。			
現況		目標		
小中学校で「朝読書」または「学習活動内での読書の時間」が実施されている。		日常的に読書の時間を設けることにより、読書習慣を身に付ける。学級文庫の設置により、本に触れる機会を増やす取組みを進める。		

18	事業名	読書指導計画の策定	所管課	小・中学校
内容	毎年度、読書指導の目標を設定し、年度計画に基づく読書活動の推進を行う。			
現況		目標		
読書指導計画(読書活動年間指導計画)等策定 小学校14校、中学校6校(令和6年度)		全校(小学校20校、中学校10校)で策定されるよう、引き続き推進に努める。		

19	事業名	学校における読書活動の推進	所管課	教育指導課 小・中学校
内容	読書推進期間の設定や、ブックリストの作成、学校図書館・図書館の利用促進等、多様な読書活動を推進する。			
現況		目標		
各学校で、本の紹介の工夫、推薦図書の選定、読書量の設定、図書館の利用指導等特色のある読書活動を実施している。		教職員、学校図書館支援員の協働により、授業や学校図書室にて児童・生徒が読書を楽しめるよう充実を図る。 読書バリアフリー法に対応するため、アクセシブルな資料の導入や読書補助具等の整備を行う。		

20	事業名	調べ学習への支援	所管課	真砂中央図書館 小・中学校
内容	学校図書館や図書館の活用を促進し、児童・生徒の探求的な学びを支えるため、調べ学習への支援をする。また、調べる学習コンクール等により、主体的な学びを育成する。			
現況		目標		
「文京区調べる学習コンクール」を開催しており、調べ学習のために学校図書館が利用されている。調べ学習用図書を購入し団体貸出をしている。		図書館と学校図書館が連携しながら調べ学習用の図書等を充実させ、児童・生徒の興味や関心に応えるためのフロアワークやレファレンスワークを行う。 また、学校図書館支援員による授業支援を積極的に行う。		

21	事業名	学校図書館への人的支援による機能の充実	所管課	真砂中央図書館 教育指導課 小・中学校
内容	学校図書館へ支援員を派遣し、学校図書館の読書センター・学習センター・情報センターとしての機能を充実させ、活性化を図る。			
現況		目標		
27年度から全区立小中学校へ支援員の派遣を開始した。 学校図書館での貸出数 488,344冊(令和6年度)		学校図書館ガイドラインに沿った運営を目指し、学校図書館の環境整備と児童・生徒への読書への意欲を高める工夫をし、利用促進を図る。また、学校図書館への支援の充実に向けた取組みを進める。		

22	事業名	学校図書館資料の充実	所管課	学務課
内容	計画的に廃棄や購入を行い、魅力ある本や調べ学習に必要な資料の充実を図り、生徒の学習支援、読書支援を行う。			
現況		目標		
学校図書館図書標準充足率(令和6年度実績) 100% 小学校14校、中学校7校 90～99% 小学校6校、中学校3校		学校図書館図書標準充足率を100%とするとともに、学校図書館の読書センター、学習センター、情報センターとしての機能を発揮できる蔵書構成を備える。 読書バリアフリー法に対応するため、アクセシブルな資料の導入や読書補助具等の整備を行う。		

23	事業名	高等学校図書館との連携・支援体制の構築	所管課	真砂中央図書館
内容	高等学校図書館の資料の充実を図り、生徒の学習支援、読書支援を行う。			
現況		目標		
団体貸出、「yomitan2024」の読んでみたい本投票、図書委員会との連携によるPOP作成や特集コーナーの設置等に取り組んだ。		高等学校図書館等へ計画の周知・啓発を図り、図書館との連携について協議する。 また、ボランティアとしての行事への参加やブックリストの作成などの連携を図る。		

目標 4 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発

すべての子どもたちが読書に親しめるよう、図書館の利用促進を図るとともに、子どもの読書活動に関する理解と関心が深まるよう、SNS等を活用するなど、保護者への積極的な働きかけを行います。

24	事業名	保護者等への啓発	所管課	真砂中央図書館 幼稚園・小・中学校 児童青少年課 保育園・児童館
内容	子どもの好む本や読んでほしい本を紹介し、また、講演会等を行い、読書や読み聞かせの大切さを伝える。			
現況		目標		
学校や幼稚園、保育園、図書館等、各々がお便りなどの発行、ボランティアによる読み聞かせ、講演会等による啓発を行っている。 子どもや保護者が絵本を手に取りやすい環境整備等を行い子どもの好む本や読んで欲しい本を紹介し、また、保護者会や園だより等を通して読書や読み聞かせの大切さを伝える。		読書や読み聞かせの大切さなどについて、より多くの保護者に情報が届くように、SNS等を活用した情報発信を行う。また、親子で参加する行事や保護者向けの講座等を充実する。 子どもの読書や図書館利用に対する理解が深まるよう啓発する。		

25	事業名	子どもへの啓発	所管課	真砂中央図書館
内容	読書の楽しさや大切さを子どもたちに伝えるため、子どもと本に関わる人々がそれぞれの取組を充実させるとともに、連携を図る。			
現況		目標		
関連部署や団体との連携を図り、子どもたちが本にふれる機会を増やし、イベントなどに取組んでいる。		子どもたちの身近な場所に本があり、いつでも気軽に本を読める環境をつくるとともに、イベントや展示などを通じて、子どもたちへ読書の楽しさを伝える。また、子どもに対する意見募集やアンケート等を行い、イベントの企画や図書の選定に活用する。		

26	事業名	プレママ・プレパパへの啓発	所管課	真砂中央図書館
内容	これからママ、パパになる方に向け、読み聞かせやわらべ歌などを通して、子どもとともに楽しむ読書の大切さを伝える。			
現況		目標		
母子手帳交付時の「母と子の保健バッグ」に啓発チラシを同封している。プレママ・プレパパも参加する行事で読書の大切さを伝えている。		行事等において子どもとともに楽しむ読書の大切さを伝えていく。 また、来館できない妊婦等のためのサービスについて検討する。		

27	事業名	文京区の子ども読書活動に関する情報窓口(ホームページ)の充実	所管課	真砂中央図書館
内容	図書館ホームページ内の「子ども読書支援ページ(こどもの本に関わる方へ)」の充実を図り、情報発信の拠点とする。また、子ども読書活動推進計画(子ども用)を作成し、計画を周知する。			
現況		目標		
子どものホームページ内に図書館行事や講座案内、夏休みの小学生向けおすすめリスト情報、子ども読書活動推進計画の進捗状況調査結果等を掲載している。		適切な時期に速やかにページ情報を更新し、子どもと子ども読書活動に関わる人に対する情報発信源としての内容の充実を図る。		

28	事業名	子どもの居場所としての図書館の利用促進	所管課	真砂中央図書館
内容	様々な事情を抱える子どもたちに対し、きめ細かに図書館サービスを周知することで、家庭や学校以外に安心して居られる場所となるよう図書館の利用促進を図り、子どもたちの読書活動を推進する。			
現況		目標		
様々な事情を抱える子どもなど、すべての子どもたちにとって、図書館が家庭や学校以外の居場所として利用できる。		地域に開かれた身近な施設である図書館が、子どもたちの居場所として活用されるよう、様々な事業との連携を図りながら、図書館サービスを周知する。		

29	事業名	子ども向けホームページの充実	所管課	真砂中央図書館
内容	読書へのきっかけ作りのために図書館ホームページの「こどものページ」「Teen's(ティーンズ)ページ」を充実させる。			
現況		目標		
子どものページには、おすすめ本のリストや子ども向け行事案内を掲載している。YAページには、おすすめリスト等の本の情報や各図書館のYAコーナーのお知らせを掲載している。		図書館のホームページ「こどものページ」「Teen's(ティーンズ)ページ」の更新頻度を増やし、情報が新鮮なホームページづくりをする。また、電子書籍の周知を強化する。		

30	事業名	「文京区子ども読書活動推進計画」実施のための進行管理	所管課	真砂中央図書館
内容	計画推進のためのセンター機能を真砂中央図書館に置き、計画の進捗状況を管理する。			
現況		目標		
「文京区子ども読書活動推進計画」の進捗状況について調査を行い、進行管理を行うとともにホームページに掲載している。		計画の進行管理を行うことで、関係各所が課題改善に取組み、計画の進行管理、本計画を効果的に推進する。		

目標 5 地域団体等との協働による子どもの読書活動の活性化

子どもの読書活動に関わる地域の個人・団体、大学等との協働による取組を推進します。
また、図書館及び学校図書館職員、ボランティアの研修の充実により、資質の向上と図書館の活性化を図ります。

31	事業名	職員・教員の研修の充実	所管課	真砂中央図書館 教育指導課 小・中学校
内容	子どもの読書活動推進に関わる研修等を実施する。			
現況		目標		
区立幼・小・中学校教育研究会を実施している。		教職員と学校図書館支援員が協働して学校図書館運営にあたり、学校図書館の活用を図ることができるよう各種研修等を通して、職員・教員の資質向上を図る。		

32	事業名	図書館職員の研修の充実	所管課	真砂中央図書館
内容	子どもの読書活動推進に関わる研修等に参加する。			
現況		目標		
司書講習や、都立図書館等で実施している研修に参加している。各自が情報収集や講習会に参加するなど、自己啓発に努めている。		館内・館外研修やeラーニング研修などの各種研修等を通して、図書館職員の資質向上を図る。		

33	事業名	区内の大学等との連携の推進	所管課	真砂中央図書館
内容	区内にある大学、専門学校等と連携、協力し、子どもの読書活動推進を図る事業を実施する。			
現況			目標	
大学生のボランティアグループによる児童行事を実施している。			大学等と協働してボランティアを募り、学生の専門性を活かした行事等を充実する。	

34	事業名	区内にある児童図書出版社や書店との連携の推進	所管課	真砂中央図書館
内容	区内にある児童図書出版社や書店と連携し講演会等を実施する。			
現況			目標	
区内の児童図書出版社と共催し、絵本原画展や作家の講演会等を行っている。			講演会や原画展、おすすめの本の紹介等、出版社や書店等との事業を充実させ、連携して読書の魅力を発信する。	

35	事業名	区関係機関との協力・連携体制の推進	所管課	真砂中央図書館
内容	区の関係機関と情報交換を行い相互の連携による事業を行うなど、図書館内外での子どもの読書活動推進に努める。			
現況			目標	
「子育てフェスティバル」などのイベントに参加し、図書館以外での読み聞かせなどを行っている。			区関係機関や地域で行われるイベントなど、図書館以外の場所での出張型の行事等を充実する。	

36	事業名	図書館ボランティア(ライブラリーパートナー)の育成と連携	所管課	真砂中央図書館
内容	区内の多才な人材を活かした図書館サービスの充実を図るとともに、図書館運営に区民の参画を促進することにより、地域に密着した図書館運営を行うため、図書館ボランティアを育成し、活動の場を提供する。			
現況			目標	
図書館ボランティア研修を実施している。行事への出演や装飾物の作成等各々の特性を活かして活動している。			ボランティアのスキルに応じた研修を実施し、スキルや経験を活かした活動の場を充実する。	

37	事業名	学校図書館のボランティアへの支援	所管課	真砂中央図書館
内容	学校図書館のボランティア向けの研修等を実施する。			
現況			目標	
小学校図書館のボランティア向けに研修を実施している。			研修等を実施し、ボランティアの技術向上を支援する。	

38	事業名	地域社会における読書活動を推進する団体等との連携の推進	所管課	真砂中央図書館 社会福祉協議会
内容	子どもの読書活動に関わる地域や民間の関係団体の活動を支援し、連携を深め、情報交換や人的交流を促進する。			
現況			目標	
ボランティア団体や子育てサロンの活動のPRや団体向けに読み聞かせの講座等を行い、読み聞かせの活動を支援している。			図書館とボランティアセンターが連携し、地域社会で子どもの読者活動推進に関わる人材や団体を支援する。	

【別表】学校図書館図書標準

公立義務諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年に文部省が定めた。

小学校

学級数	蔵書冊数
1	2,400
2	3,000
3～6	$3,000+520 \times (\text{学級数}-2)$
7～12	$5,080+480 \times (\text{学級数}-6)$
13～18	$7,960+400 \times (\text{学級数}-12)$
19～30	$10,360+200 \times (\text{学級数}-18)$
31～	$12,760+120 \times (\text{学級数}-30)$

中学校

学級数	蔵書冊数
1～2	4,800
3～6	$4,800+640 \times (\text{学級数}-2)$
7～12	$7,360+560 \times (\text{学級数}-6)$
13～18	$10,720+480 \times (\text{学級数}-12)$
19～30	$13,600+320 \times (\text{学級数}-18)$
31～	$17,440+160 \times (\text{学級数}-30)$

特別支援学校 小学部

学級数	蔵書冊数	
	視覚障害者に対する教育を行う特別支援学校	視覚障害者に対する教育を行う特別支援学校
1	2,400	2,400
2	2,600	2,520
3～6	$2,600+173 \times (\text{学級数}-2)$	$2,520+104 \times (\text{学級数}-2)$
7～12	$3,292+160 \times (\text{学級数}-6)$	$2,936+96 \times (\text{学級数}-6)$
13～18	$4,252+133 \times (\text{学級数}-12)$	$3,512+80 \times (\text{学級数}-12)$
19～30	$5,050+67 \times (\text{学級数}-18)$	$3,992+40 \times (\text{学級数}-18)$
31～	$5,854+40 \times (\text{学級数}-30)$	$4,472+24 \times (\text{学級数}-30)$

特別支援学校 中学部

学級数	蔵書冊数	
	視覚障害者に対する教育を行う特別支援学校	視覚障害者に対する教育を行う特別支援学校
1～2	4,800	4,800
3～6	$4,800+213 \times (\text{学級数}-2)$	$4,800+128 \times (\text{学級数}-2)$
7～12	$5,652+187 \times (\text{学級数}-6)$	$5,312+112 \times (\text{学級数}-6)$
13～18	$6,774+160 \times (\text{学級数}-12)$	$5,984+96 \times (\text{学級数}-12)$
19～30	$7,734+107 \times (\text{学級数}-18)$	$6,560+64 \times (\text{学級数}-18)$
31～	$9,018+53 \times (\text{学級数}-30)$	$7,328+32 \times (\text{学級数}-30)$

ぶんきょうく こ

どくしょかつどう

すいしんけいかく

あん

文京区子ども読書活動推進計画（案）

ぶんきょうく
文京区

もくじ

1 はじめに

2 アンケートの結果^{けっか}

2-1 ^{しょうがくせい}小学生・^{ちゅうがくせい}中学生・^{こうこうせい}高校生

2-2 ^{しょうがくせい}小学生・^{ちゅうがくせい}中学生・^{こうこうせい}高校生

2-3 ^{ようちえん}幼稚園や^{ほいいくえん}保育園に通っている^こ子どものおとうさん・おかあさん

3 計画の5つの目標^{けいかく}

^{もくひょう}目標1 ^{はったつだんかい}発達段階に^{おう}応じた^{どくしょきかい}読書機会^{ていきょう}の提供

^{もくひょう}目標2 ^{たよう}多様な^こ子どもたちへの^{どくしょきかい}読書機会^{ていきょう}の提供

^{もくひょう}目標3 ^{かてい}家庭・^{ちいき}地域・^{がっこう}学校・^{かんけいきかん}関係機関における^{どくしょかんきょう}読書環境^{せいび}の整備と^{どくしょかつどう}読書活動^{じゅうじつ}の充実

^{もくひょう}目標4 ^こ子どもの^{どくしょかつどう}読書活動^{いぎ}の意義や^{たいせつ}大切さの^{ふぎゅう}普及・^{けいはつ}啓発

^{もくひょう}目標5 ^{ちいきだんたいとう}地域団体等との^{きょうどう}協働による^{どくしょかつどう}読書活動^{かっせいか}の活性化

4 まとめ

1 はじめに

ぶんきょうく こ どくしょかつどう おうえん ぶんきょうく どくしょかつどう
文京区では、子どもたちの読書活動を応援するために、「文京区子ども読書活動
すいしんけいかく ねんかん けいかく た よてい
推進計画」という、これからの5年間の計画を立てる予定です。

けいかく れいわ ねんど れいわ ねんど ねんかん すす
この計画は、令和8年度から令和12年度までの5年間、進められていきます。

● 計画をつくる目的（何のために？）

けいかく もくてき なん
この計画は、子どもたちがもっと本と出会い、**読書を楽しめるようにするため**
の**ものです**。これまでもいろいろな**とみ**組みをしてきましたが、**しゃかい へんか**
社会の**変化**に
あわせて、例えば、目の不自由な子どもも**どくしょ たの**
読書を楽しめるようにしたり、デジタル
どくしょで読書ができるようにしたりといった**あた**新しい**かだい**課題にも**たいおう**対応できるように**かんが**考えて
います。

● 対象年齢（だれのために？）

たいしょうねんれい
この計画は、**0歳**から**およそ18歳**までの**こどもたち**を**たいしょう**対象にしています。

2 アンケート結果^{けっか}

計画^{けいかく}を立てる^た前に、文京区^{まえ}では子どもたちの読書^{ぶんきょうく}についてアンケートをとりまし
た。^こ ^{どくしょ}

本^{ほん}を読む^よことが「好き^す」という人の割合^{ひと}が、小学生^{わりあい}と高校生^{しょうがくせい}は80%（100人中80
人^{にん}）以上、中学生^{いじょう}は73%（100人中73人^{にん}）以上^{ちゅうがくせい}でした。^{にんちゅう} ^{にん} ^{いじょう}

また、本^{ほん}を読む^よことが「きれい」「にがて^こ」という子どもたちに、読書^{どくしょ}をする
チャンス^ふを増^ふやしたり、楽しい^{たの}と思^{おも}ってもらえる工夫^{くふう}が必要^{ひつよう}であることがわかりま
した。

アンケートに答^{こた}えてくれたみなさん、ありがとうございました。

2-2 アンケート結果^{けっか}（小学生^{しょうがくせい}・中学生^{ちゅうがくせい}・高校生^{こうこうせい}）

Q 読書^{どくしょ}の量^{りょう}と読む場所^{よ ばしょ}

● 1か月に読んだ本の数^{げつ よ ほん かず}

・小学3年生は平均^{しょうがく ねんせい へいきん さつ}12.8冊

・中学2年生は平均^{ちゅうがく ねんせい へいきん さつ}5.9冊

・小学5年生は平均^{しょうがく ねんせい へいきん さつ}9.3冊

・高校2年生は平均^{こうこう ねんせい へいきん さつ}3.8冊

● 本を読まない子どもの割合^{ほん よ こ わりあい}

1か月に1冊も本を読まなかった子の割合は、小学^{しょうがく}3年生^{ねんせい}で100人^{にん}のうち10人^{にん}、小学^{しょうがく}5年生^{ねんせい}で100人^{にん}のうち14人^{にん}、高校^{こうこう}2年生^{ねんせい}ではおよそ^{はんぶん}半分^{はんぶん}となりました。

● どこで本を読んでる？^{ほん よ}

どの年齢^{ねんれい}の子どもも、「自分の家^{じぶん いえ}」で読むことが一番多かったです。次に多かったのは、小学^{しょうがく}3年生^{ねんせい}、5年生^{ねんせい}、中学^{ちゅうがく}2年生^{ねんせい}は「教室^{きょうしつ}」で、高校^{こうこう}2年生^{ねんせい}は「区立図書館^{くりつとしょかん}」でした。学校図書館^{がっこうとしょかん}も、多くの子どもたちが利用^{りよう}している場所^{ばしょ}です。

2-1 アンケート結果^{けっか}（小学生^{しょうがくせい}・中学生^{ちゅうがくせい}・高校生^{こうこうせい}）

Q 読書^{どくしょ}をしない理由^{りゆう}

読書^{どくしょ}をしなかった人^{ひと}に理由^{りゆう}を聞^ききました。一番^{いちばん}多^{おほ}かった理由^{りゆう}は次^{つぎ}のとおりです。

● 小学3年生^{しょうがく ねんせい}

「外遊び^{そとあそ}、スポーツ^{ほうす}の方が好き」

● 小学5年生^{しょうがく ねんせい}、中学2年生^{ちゅうがく ねんせい}、高校2年生^{こうこう ねんせい}

「テレビやゲーム^{ほうす}の方が好き」

● ほかに、このような意見^{いけん}がありました

「読書^{どくしょ}がきらい」「読みたい本^{よほん}がない」「勉強^{べんきょう}が忙しい^{いそが}」という声^{こえ}も聞^きかれま
した。特に中学2年生^{とく ちゅうがく ねんせい}では、「読書^{どくしょ}がきらい」が35.9%、高校2年生^{こうこう ねんせい}では、「読
みたい本^{よほん}がない」が27.0%と高^{たか}くなっています。

2-3 アンケート結果^{けっか}（おとうさん・おかあさん）

Q おうちでの読書^{どくしょ}のようす

● おうちでの読み聞かせ^{よ き}のようす

幼稚園^{ようちえん}や保育園^{ほいくえん}の子どもたちの保護者^{ほごしゃ}に聞くと、93.9%のおうちで読み聞かせ^{よ き}をしている^わことが分かりました。多くの保護者^{おほ ほごしゃ}が「読み聞かせは子どもの成長^{せいちょう}に役立つ^{やくだ}」と感じています。一方で、「ほとんどしていない」というおうちが6.1%ありました。

● おうちにある本^{ほん}の数^{かず}

「絵本^{えほん}が51冊以上^{さつじょう}」というおうちが44.2%あり、多くの家庭^{おほ かてい}で絵本^{えほん}がたくさんあることが分かりました。

2-4 アンケート結果のまとめと課題

アンケート結果から、文京区の子どもたちの読書活動には、つぎのような課題が見えてきました。

●読書が好きな子も、きれいな子も楽しめるように

読書がきれい、読みたい本が見つからないという子どものために、何をすればよいか考える必要があります。

また、読書が好きな子どもたちがこれからも読書を楽しめるように、工夫していく必要があります。

●だれもが読書をしたいときにできるように

子どもたちがいつも過ごす様々な場所で、読書ができる環境を整える必要があります。

この計画では、これらの課題を解決するために、5つの目標を立てて、いろいろな取り組みをしていきます。

けいかく

もくひょう

3 計画の5つの目標

ぶんきょうくこ どくしょかつどうすいしんけいかく こ どくしょ たの おお もくひょう
文京区子ども読書活動推進計画では、子どもたちが読書をもっと楽しめるように、つぎの5つの大きな目標
と
に取り組みます。

もくひょう はったつだんかい おう どくしょきかい ていきょう
目標1 発達段階に応じた読書機会の提供

あか せいちょう あほん であ きかい
赤ちゃんからおとなになるまで、ひとりひとりの成長に合わせて、本と出会う機会をつくります。

もくひょう たよう こ どくしょきかい ていきょう
目標2 多様な子どもたちへの読書機会の提供

め ふじゆう こ がいこくご はな こ さまざま こ どくしょ たの
目の不自由な子どもや、外国語を話す子どもなど、様々な子どもたちが読書を楽しめるようにします。

もくひょう かてい ちいき がっこう かんけいきかん こ どくしょかんきょう せいび どくしょかつどう じゅうじつ
目標3 家庭・地域・学校・関係機関における子どもの読書環境の整備と読書活動の充実

いえ がっこう としょかん じどうかん こ おお じかん す ばしょ ほん どくしょ
家、学校、図書館、児童館など、子どもたちが多くの時間を過ごすいろいろな場所に本をならべ、読書した
いときができるようにします。

もくひょう こ どくしょかつどう いぎ たいせつ ふきゅう けいはつ
目標4 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発

かた まわ どくしょ たいせつ つた こ どくしょ おうえん
おうちの方や周りのおとなに、読書の大切さを伝えて、子どもたちと読書をもっと応援してもらえるように
します。

もくひょう ちいきだんたいとう きょうどう こ どくしょかつどう かつせいか
目標5 地域団体等との協働による子どもの読書活動の活性化

ちいき だんたい だいがく ほんや きょうりよく こ どくしょかつどう かつぱつ
地域のいろいろな団体、大学、本屋さんなどと協力して、子どもの読書活動をもっと活発にしていきます。

もくひょう はったつだんかい おう どくしょきかい ていきょう
[目標 1] 発達段階に応じた読書機会の提供

とく めい 取り組み名	ないよう 内容
じぎょう じゅう ブックスタート事業の充 じつ 実	せいご げつ あか えほん はい 生後4か月の赤ちゃんに、絵本が入ったブックスタートパックをプ れゼントして、親子のふれあいを通した本との出会いのきっかけを つく 作ります。
かい よ き おはなし会や読み聞かせ ほん ふ きかい などの本に触れる機会の ていきょう 提供	こ そうぞうりよく ゆた ところ はぐく ようちえん ほしいくえん 子どもの想像力や豊かな心を育むため、幼稚園や保育園で、おはな かい えほん かみしばい よ き せっきよくてき と い し会や絵本・紙芝居の読み聞かせを積極的に取り入れます。
さくせい ブックリストの作成	ねんれい あ ほん さくせい 年齢に合わせたブックリスト（おすすめの本のリスト）を作成し、 よ ほん こえ こた こうこうせいむ 「読みたい本がない」という声にも応えます。高校生向けのリスト あた につく も新しく作ります。
ちゅうがくせい こうこうせい たいしょう 中学生・高校生を対象と じゅうじつ したサービスの充実	ちゅうがくせい こうこうせい ほん であ としょかん ちゅうこうせい 中学生・高校生が本と出会えるように、図書館の中高生コーナーを みりよくてき じゅうじつ 魅力的にしたり、ホームページを充実させたりします。

もくひょう たよう こ どくしよきかい ていきよう
〔目標2〕 多様な子どもたちへの読書機会の提供

とく めい 取り組み名	ないよう 内容
どくしよ むずか 読書することが難しい こ む ほん じゅうじつ 子ども向けの本の充実	てんじとしよ ろくおんとしよ おお もじ ほん めの えほん 点字図書や録音図書、大きな文字の本、布の絵本などのいろいろな ほん でんししよせき ふ 本や電子書籍も増やします。
がいこくごとしよ せいび じゅうじつ 外国語図書の整備・充実	がいこくご はな こ がいこくご ほん あつ 外国語を話す子どもたちのために、外国語の本もたくさん集めます。
がいこくご はな こ どく 外国語を話す子どもの読 しよかつどう すいしん 書活動の推進	にほんご か ほん ようい がいこくご かい やさしい日本語で書かれた本を用意したり、外国語でのおはなし会 おこな がいこくご はな こ どくしよ した し を行ったりして、外国語を話す子どもたちが読書に親しめるよう支 えん 援します。
にゅういんちゅう こ 入院中の子どもへのサー じゅうじつ ビスの充実	にゅういん こ どくしよ とお ほん 入院している子どもたちが読書から遠ざかることのないよう、本を か だ かい 貸し出したり、おはなし会をしたりします。

もくひょう かてい ちいき がっこう かんけいきかん どくしょかんきょう せいび どくしょかつ
 [目標 3] 家庭・地域・学校・関係機関における読書環境の整備と読書活
 どう じゅうじつ
 動の充実①

とく めい 取り組み名	ないよう 内容
としょかん がっこう しせつ 図書館と学校や施設との れんけい しえんたいせい じゅうじつ 連携・支援体制の充実	としょかん がっこう ようちえん ほいいくえん ほん か だ 図書館から学校、幼稚園、保育園などにたくさんの本を貸し出した り、図書館の職員がおはなし会に行ったりします。
あか ほとりや としよ 赤ちゃんと保護者が図書 かん りよう かんきょう 館を利用しやすい環境づ くり	おやこ たの あんしん としよかん つか あか む えほん 親子で楽しく安心して図書館を使えるように、赤ちゃん向けの絵本 いくじ かん ほん ようい としよかん や育児に関する本を用意したり、図書館のレイアウトやサービスを くふう 工夫したりします。
でんししよせき かつよう 電子書籍の活用	つか ほん よ タブレットなどを使ってインターネットからも本が読めるようにし ます。
がっこう どくしよじかん 学校における読書時間の かくほ 確保	どくしよ しゅうかん み あさどくしよ どくしよしゅうかん どくしよ おこな 読書をする習慣が身につくよう、朝読書や読書週間など、読書を行 じかん もう う時間を設けます。

もくひょう かてい ちいき がっこう かんけいきかん どくしよかんきょう せいび どくしよかつ
 [目標3] 家庭・地域・学校・関係機関における読書環境の整備と読書活
 どう じゅうじつ
 動の充実②

と く めい 取り組み名	ないよう 内容
がっこう どくしよかつどう 学校における読書活動の すいしん 推進	さくせい どくしよ たんきゅう ブックリストを作成したり、イベントをしたり、読書による探究 かつどう はっぴょう きかい もう 活動や発表の機会も設けたりします。
しら がくしゅう しえん 調べ学習への支援	がっこう としよかん ちいき としよかん こ しら がくしゅう てつだ 学校の図書館や地域の図書館で、子どもたちの調べ学習をお手伝 いします。
がっこう としよかん ししよ は 学校の図書館へ司書を派 けん きのう じゅうじつ 遣して機能を充実	がっこう としよかん ほん くわ としよかんいん ししよ こ 学校の図書館で、本に詳しい図書館員（司書）が、子どもたちの どくしよ がくしゅう てつだ 読書や学習をお手伝いします。
がっこうとしよかんしりょう じゅうじつ 学校図書館資料の充実	こ きょうみ も さいしん ほん 子どもたちが興味を持つような、最新の本やいろいろなジャンル ほん しら がくしゅう ひつよう ほん けいかくてき の本、調べ学習に必要な本を計画的にそろえていきます。

もくひょう こ どくしょかつどう いぎ たいせつ ふぎゅう けいはつ
 [目標4] 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発

とくめい 取り組み名	ないよう 内容
ほごしゃ けいはつ 保護者への啓発	ほごしゃ たい こ このほん よ ほん しょうかい こうえんかい 保護者に対して子どもの好む本や読んでほしい本の紹介や講演会 おこな どくしょ よ き たいせつ つた などを行い、読書や読み聞かせの大切さを伝えます。
こ けいはつ 子どもへの啓発	どくしょ たの たいせつ こ つた 読書の楽しさや大切さを子どもたちに伝えます。また、イベント おこな どくしょ きょうみ かんしん たか やコンテストなどを行って、読書への興味・関心を高めます。
プレママ・プレパパへの けいはつ 啓発	かた む よ き うた これからママ、パパになる方に向け、読み聞かせやわらべ歌など、 こ たの どくしょ たいせつ つた 子どもと楽しむ読書の大切さを伝えます。
どくしょかつどう かん 子ども読書活動に関する じょうほうまどぐち 情報窓口（ホームページ じゅうじつ ）の充実	としょかん じょうほう ほん どくしょ かん 図書館ホームページに、イベント情報、おすすめの本、読書に関 けいさい くみん やくだ じょうほう ていきょう するコラムなどを掲載して、区民にとって役立つ情報を提供しま す。

もくひょう ちいきだんたいとう きょうどう どくしょかつどう かつせいか
〔目標5〕 地域団体等との協働による読書活動の活性化

とくめい 取り組み名	ないよう 内容
どくしょかつどう じゅうじつ 読書活動を充実させるた めの人材育成 じんざいいくせい	としょかん がっこう せんせい こ どくしょ した ひつよう 図書館や学校の先生たちが、子どもたちが読書に親しむために必要 ちしき み けんしゅう おこな な知識やスキルを身につけるため、研修を行います。
ちいきだんたいとう れんけい 地域団体等との連携	ちいき だんたい だいがく ほんや きょうりよく ちいきぜんたい 地域のいろいろな団体、大学、本屋さんなどと協力して、地域全体 こ どくしょ おうえん で子どもたちの読書を応援します。
としょかん いく 図書館ボランティアの育 成・協力 せい きょうりよく	としょかん いくせい 図書館のボランティアさん（ライブラリーパートナー）を育成して、 よ き おこな 読み聞かせやイベントのサポートを行います。
がっこうとしょかん 学校図書館ボランティア かつどう しえん 活動の支援	がっこうとしょかん ほごしゃ ちいき じゅうみん みな 学校図書館のボランティアさんなど、保護者や地域の住民の皆さん がっこうとしょかん うんえい さんか こ どくしょ おうえん が学校図書館の運営に参加して、子どもたちの読書を応援します。

4 まとめ

これらの具体的な取り組みを通して、**0歳から18歳までの子ども**たちが、本と出会い、読書を楽しめる環境を整えることをめざすとともに、文京区の子どもたちが本とたくさん出会い、読書の楽しさを感じて、未来を豊かに生きていくための力を育めるように、区全体で応援していきます。